

Novell Nterprise™ Linux* Services

www.novell.com

インストールガイド

2003 年 12 月 19 日



Novell®

法令通知

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容または本書を使用した結果について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、本書の商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認し、排除します。また、本書の内容は予告なく変更されることがあります。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認し、排除します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本製品を輸出または再輸出する場合は、米国の輸出関連法規および居住国の関連法規の適用を受けます。

Copyright © 2003 Novell, Inc. All rights reserved. 本書の一部または全体を無断で複写・転載することは、その形態を問わず禁じます。

Novell, Inc.
1800 South Novell Place
Provo, UT 84606
U.S.A.

www.novell.com

Novell Enterprise Linux Services インストールガイド

2003 年 12 月 19 日

オンラインドキュメント：この製品および他の Novell 製品に関するオンラインマニュアルにアクセスしたり更新を行うには、www.novell.com/documentation を参照してください。

Novell の商標

DirXML は、米国ならびに他の国における米国 Novell, Inc. の登録商標です。

eDirectory は、米国 Novell, Inc. の商標です。

GroupWise は、米国ならびに他の国における米国 Novell, Inc. の登録商標です。

NetMail は、米国 Novell, Inc. の商標です。

NetWare は、米国ならびに他の国における米国 Novell, Inc. の登録商標です。

Novell は、米国ならびに他の国における米国 Novell, Inc. の登録商標です。

Novell iFolder は、米国ならびに他の国における米国 Novell, Inc. の登録商標です。

Novell NetStorage は、米国 Novell, Inc. の商標です。

Nterprise は、米国 Novell, Inc. の商標です。

Red Carpet は、米国 Novell, Inc. の商標です。

Ximian は、米国ならびに他の国における米国 Novell, Inc. の登録商標です。

ZENworks は、米国ならびに他の国における米国 Novell, Inc. の登録商標です。

サードパーティの商標

サードパーティ各社の商標は、所有者であるそれぞれの会社に所属します。

この製品には、Apache や Tomcat など、Apache のライセンスに基づいてライセンスを受けた素材が含まれています。

この製品には、RSA Security, Inc. からライセンスを受けたコードが含まれています。IBM からライセンスを受けた部分の一部は、<http://oss.software.ibm.com/icu4j/> で入手できます。

目次

本書について	3
1 Nterprise Linux Services のインストールの準備	5
プランニングワークシートの使用	5
eDirectory ツリーのプランニング	5
ツリー内の 1 番目のサーバが重要	5
サーバの時刻を同期させる	5
NNLS のインストール条件の順守	6
サポートされている Linux プラットフォームのみにインストールする	6
NNLS のインストール時はインターネット接続を有効にする	6
すべてのハードウェア要件およびソフトウェア要件に従う	6
NNLS の Linux インストール要件の順守	6
静的な IP アドレスを使用する	6
ホスト名のみを入力する	7
事前にパーティションをプランニングする	7
NNLS をインストールする前に /etc/hosts をチェックする	7
NNLS のインストールタイプの選択	7
クイックインストールについて	8
カスタムインストールについて	9
クイックインストールを選択してカスタムインストールを行う	10
対話型インストールと非対話型インストールの選択	11
2 Nterprise Linux Services のインストール	13
NNLS ソフトウェアと .nfk ファイルの入手	13
インストール用 NNLS ファイルの準備	14
NNLS インストールスクリプト (install.sh)	15
対話型のクイックインストールまたはカスタムインストールの実行	15
非対話型のクイックインストールまたはカスタムインストールの実行	16
インストールイベントの記録	17
3 NNLS インストール後の手順	19
インストールの成功の確認	19
インストール後の作業の完了	20
4 NNLS のコンポーネントの更新	21
NNLS サーバのグループ化	21
新しい RCD グループの作成	21
RCD グループへの NNLS サーバの追加	22
ソフトウェアパッケージの更新	22
RCD グループを使用するパッケージの管理	23
スタンドアロンサーバのパッケージの管理	23
5 NNLS のコンポーネントのアンインストール	25
NNLS のコンポーネントのアンインストール	25
iPrint のアンインストール	25

A	初期インストール後の install.sh の実行	27
B	NNLS プランニングワークシート	29
	ワークシートについて	29
	NNLS サーバ	30
	サーバのハードウェア要件	30
	システムソフトウェアの要件	31
	サーバのネットワーク構成	31
	ディスクパーティション	31
	ファイアウォール	32
	既存の Apache Web サーバ	33
	インストールのプランニング	34
	既存のツリーへのインストールのプランニング	34
	eDirectory	36
	Linux User Management	40
	DirXML スタータパック	43
	eGuide	45
	Samba	46
	iFolder	50
	NetMail	52
	iManager	55
	iPrint	57
	Virtual Office	58
	Red Carpet	61
C	NNLS のファイルとデータの場所	63
	全般的な規則	63
	例外	64
	例	64

本書について

オープンソースの流れの中で、多くの CIO はビジネスシステムの鍵となるプラットフォームとして Linux に関心を示しています。

Novell[®] Nterprise[™] Linux Services (NNLS) は、ユーザとビジネスシステム間の通信を可能にして管理するために必要なすべてのネットワークサービスを Linux プラットフォームに提供します。

本書は、NNLS のプランニングとインストールに役立ててください。

マニュアルの表記規則

このマニュアルでは、手順内の操作およびクロスリファレンスパス内の項目を区切るために不等号記号 (>) を使用しています。

商標記号 ([®]、[™] など) は、Novell の商標を示しています。アスタリスク (*) はサードパーティの商標を示しています。

パス名の表記に円記号 (¥) を使用するプラットフォームとスラッシュ (/) を使用するプラットフォームがありますが、このマニュアルでは Linux の表記規則に従ってスラッシュを使用しています。NetWare[®] などのように円記号を使用するプラットフォームのユーザは、必要に応じてスラッシュを円記号に置き換えてください。

1

Nterprise Linux Services のインストールの準備

Novell® Nterprise™ Linux Services (NNLS) をインストールする前に、このセクションで説明する作業を行う必要があります。

プランニングワークシートの使用

組織の要件を満たすように NNLS をインストールするために、PDF バージョンの「**NNLS プランニングワークシート**」(29 ページ) を印刷して使用することをお勧めします。

eDirectory ツリーのプランニング

Novell eDirectory™ は、NNLS の主要なコンポーネントです。NNLS をネットワークにインストールする前に、ツリーおよびそのコンテナオブジェクトのプランニングと設計を行うための時間を取ることが重要です。

『*Novell eDirectory 8.7.3 管理ガイド*』の「**eDirectory ツリーの設計**」に記載されている問題と設計の注意事項を十分に検討してください。

以下のセクションでは、NNLS の一部として eDirectory をインストールする場合の 2 つの重要な点について説明します。

ツリー内の 1 番目のサーバが重要

ツリーにインストールする 1 番目のサーバは、組織の認証局を永続的にホストするサーバです。したがって、1 番目のサーバは信頼性があり、アクセスしやすく、ネットワーク上で常に使用可能であることが重要です。

詳細については、『*Novell eDirectory 8.7.3 管理ガイド*』の「**Novell Certificate Server について**」を参照してください。

サーバの時刻を同期させる

既存の eDirectory ツリーに NNLS をインストールする場合、または同じ eDirectory ツリーを使用する複数のサーバに NNLS をインストールする場合、NNLS をインストールする前に各サーバで同じ時刻同期方法を使用してシステム時刻を同期させる必要があります。

たとえば、NTP (Network Time Protocol) を使用して時刻を調整できます。Linux で NTP サポートを設定する方法に関する情報は、Red Hat* の Web サイト (<http://www.redhat.com/docs/manuals/linux>) などから入手できます。

時刻の同期については、『*Novell eDirectory 8.7.3 管理ガイド*』の「**ネットワーク時刻の同期**」でも説明しています。

NNLS のインストール条件の順守

サポートされている Linux プラットフォームのみにインストールする

NNLS をインストールできるのは、次のいずれかのプラットフォームだけです。

- ◆ Red Hat Enterprise Linux AS 2.1
- ◆ Red Hat Enterprise Linux ES 2.1
- ◆ SuSE* Linux Enterprise Server 8.0

重要 : Novell が正式に NNLS に関してサポートしているのはこれらの Linux ディストリビューションだけです。また、Novell の Red Carpet 更新チャンネルからパッチおよび更新を適用できるのはこれらのプラットフォームだけです。

NNLS のインストール時はインターネット接続を有効にする

製品更新用のチャンネルを提供する Red Carpet デーモンは自動的に各 NNLS サーバにインストールされるため、インストール時にインターネット接続を有効にしておく必要があります。インターネットに接続されていない場合、Red Carpet デーモンは正しく設定されません。

インターネット接続が有効になったら、Red Carpet を一旦アンインストールした後再インストールして製品の更新を適用する必要があります。

すべてのハードウェア要件およびソフトウェア要件に従う

NNLS をインストールする前に、システムが「[NNLS プランニングワークシート](#)」(29 ページ) で説明する次の要件を満たしていることを確認してください。

- ◆ [サーバのハードウェア要件](#)
- ◆ [システムソフトウェアの要件](#)

NNLS の Linux インストール要件の順守

ターゲットサーバに Linux をインストールする場合は、このセクションで説明するガイドラインに従ってください。

静的な IP アドレスを使用する

NNLS をインストールおよび設定するメカニズムでは、NNLS サーバが静的な IP アドレスを使用することが要求されます。DHCP によるアドレスの取得には対応していません。そのため、デフォルトで DHCP が使用される RedHat と SuSE のインストールでは、手で IP アドレスの設定を変更する必要があります。

ホスト名のみを入力する

Linux のインストール中にホスト名の入力を要求されたときには、ホスト名に DNS のドメイン情報を含めません。たとえば、「mylinuxbox」のみを入力します。

DNS のドメイン情報はホスト名に含めません。たとえば、「mylinuxbox.mycompany.com」とは入力しません。

ホスト名にドメインを含めると、eDirectory などの NNLS のコンポーネントが正しくインストールされません。

事前にパーティションをプランニングする

サーバのハードディスクのパーティションを設定するときには、[31 ページの表 2](#)、「[パーティション要件](#)」に示す項目をプランニングする必要があります。

NNLS をインストールする前に /etc/hosts をチェックする

NNLS 製品がサーバの IP アドレスを正しく解決できるようにするために、次の手順に従います。

1 /etc/hosts ファイルを編集します。

2 *servername* 変数がある場合は、次の行から削除します。

```
127.0.0.1 servername localhost.localdomain localhost
```

次のようになります。

```
127.0.0.1 localhost.localdomain localhost
```

3 次の行がない場合は、この行を *hosts* ファイルに追加します。

```
serverip fullyqualifiedhostname servername
```

serverip は NNLS サーバの IP アドレス、*fullyqualifiedhostname* はサーバの完全修飾ホスト名、*servername* は NNLS サーバのホスト名です。

たとえば、次のような行を /etc/hosts ファイルに追加します。

```
10.1.1.1 mycomputer.example.com mycomputer
```

NNLS のインストールタイプの選択

新しいサーバでインストールスクリプトを初めて実行する場合、インストールタイプとしてクイックインストールまたはカスタムインストールを選択する必要があります。このセクションでは、これらのオプションについて説明します。

注：1 つ以上の製品のインストールに成功した後もう一度インストールを行うと、タイプの選択を要求するプロンプトは表示されません。その代わりに、NNLS のコンポーネントをアンインストールするか、インストールされていないコンポーネントをインストールするかを選択するプロンプトが表示されます。

詳細については、[5 章「NNLS のコンポーネントのアンインストール」\(25 ページ\)](#)と [付録 A「初期インストール後の install.sh の実行」\(27 ページ\)](#)を参照してください。

クイックインストールについて

クイックインストールでは、次のような最小限の情報の入力のみが要求されます。

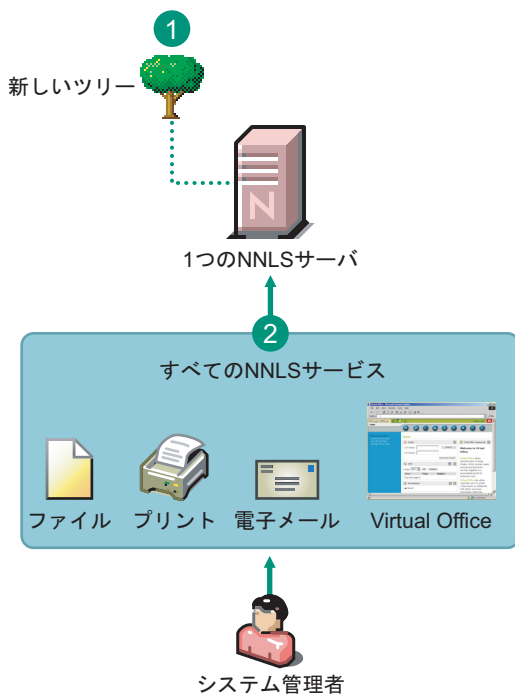
- ◆ eDirectory の NICI 基本キーファイルの場所
- ◆ 新しいツリーのネットワーク固有名
- ◆ ツリーの最上位に対するスーパーバイザ権を持つ管理者ユーザオブジェクトの名前とコンテキスト
- ◆ 管理者ユーザオブジェクトのパスワード

クイックインストールでは、次のことが実行されます。

- ◆ NNLS のすべての製品コンポーネントを単一のサーバにインストールする
- ◆ 指定されたコンテキストで新しい eDirectory ツリーと管理者ユーザを作成する
- ◆ 管理者コンテキストを他のすべてのコンテキストパラメータに対する eDirectory コンテキストとして使用して、NNLS のコンポーネントを設定する
- ◆ すべてのサービスに標準のポートを割り当てる (HTTP=80、LDAP=389 など)

図 1 に、クイックインストールを示します。

図 1 クイックインストールの概要



- 1 クイックインストールでは、新しい eDirectory ツリーが作成されます。
- 2 その後、次のことが行われます。
 - ・ NNLS のすべてのコンポーネントを NNLS サーバにインストールする
 - ・ 新しいツリーとのインターフェースおよびコンポーネント間のインターフェースを設定する

カスタムインストールについて

カスタムインストールでは、インストールする NNLS を完全にカスタマイズできます。次のような具体的な情報を入力することが要求されます。

- ◆ インストールするコンポーネント
- ◆ NNLS サーバオブジェクトを作成する場所となる eDirectory サーバ (新しいツリーまたは既存のツリー)
- ◆ 各コンポーネントの管理に使用する eDirectory サーバ
- ◆ 管理者ユーザの名前、コンテキスト、パスワード
- ◆ NNLS のコンポーネントで使用するネットワークポート

注 : NNLS のほとんどの製品コンポーネントには、NNLS と共にインストールされる Apache サーバや eDirectory などの他のサポートコンポーネントとの間に相互依存関係があります。

インストールスクリプトにより、すべての必要な相互依存関係が選択した設定に必ず含まれるようにします。


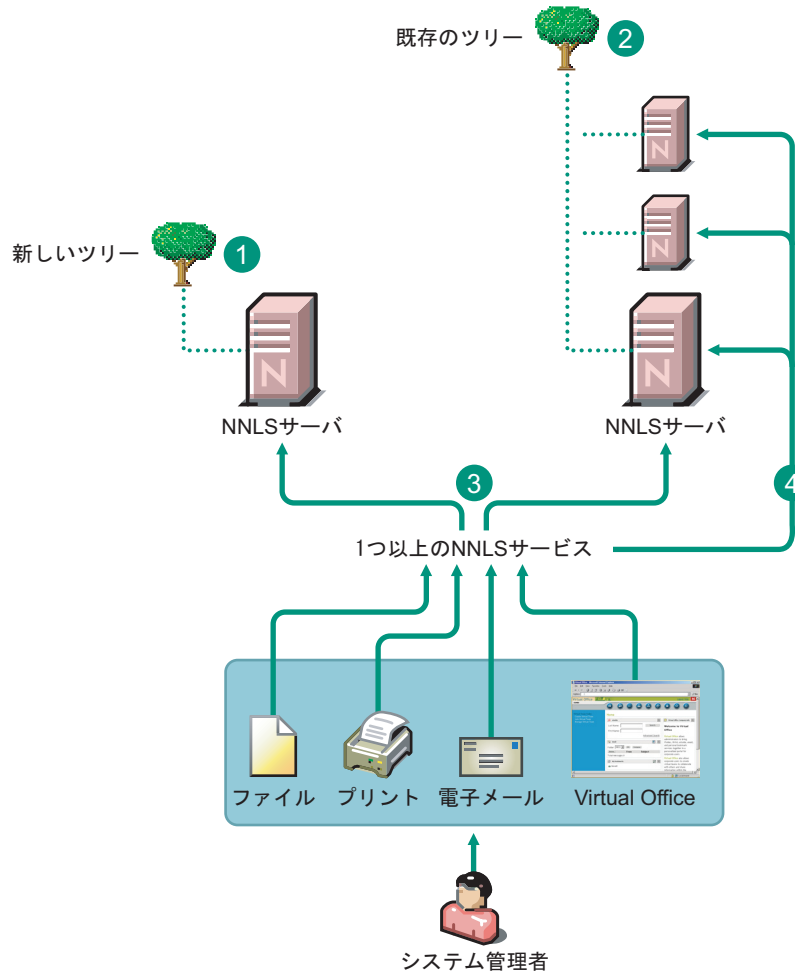
 **2** に、カスタムインストールを示します。

図2 カスタムインストールの概要



- 1 カスタムインストールでは、新しいツリーを作成して、NNLSサーバをそのツリーに配置できます。
- 2 既存のツリーに配置することもできます。
- 3 カスタムインストールでは、各NNLSサーバにインストールするNNLSのコンポーネントを指定できます。
- 4 インストールした各コンポーネントが異なるサーバまたはeDirectoryツリーで動作するように設定することもできます。

クイックインストールを選択してカスタムインストールを行う

クイックインストールを選択して4つの必須の質問に答えると、インストールの概要が表示され、変更を行うかどうか質問されます。

この時点で、任意のコンポーネントの設定を変更できます。このようにするとカスタムインストールのプロセスが簡略化され、管理者にとって便利な場合もあります。

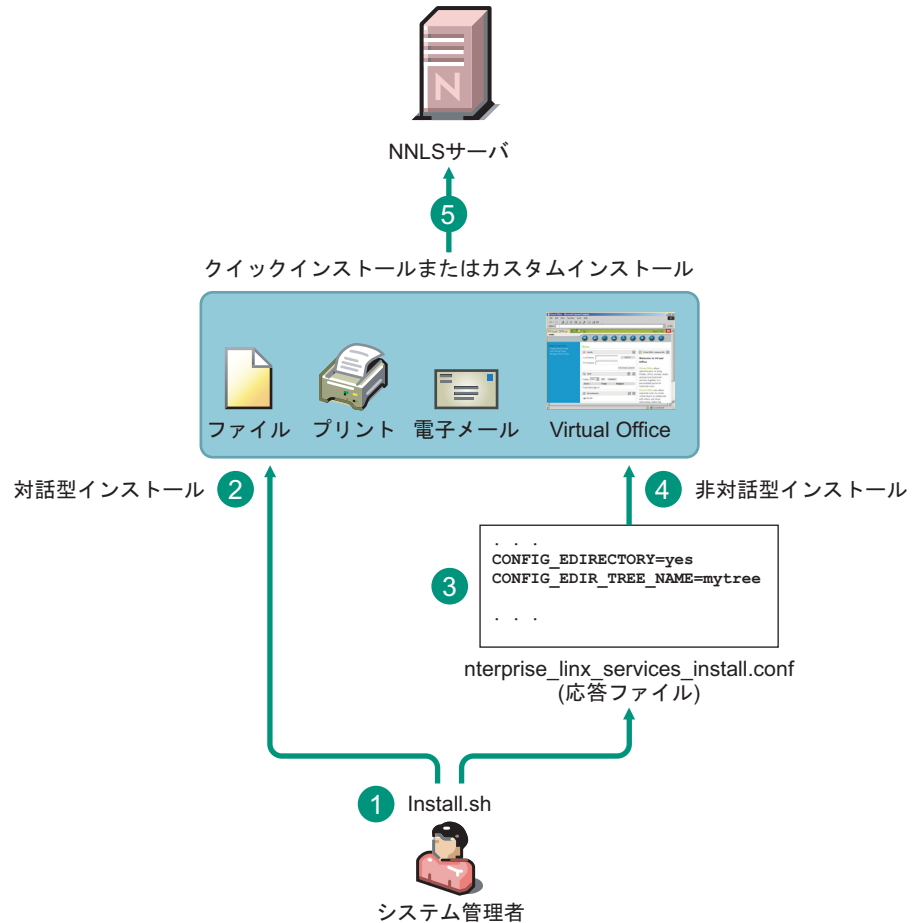
ただし、NNLSのインストールはそれぞれ異なるため、クイックインストールとカスタムインストールのどちらを選択すべきかについて明確なガイドラインを定めることはできません。一般的には、クイックインストールのデフォルトからの変更が少ないインストールを行う場合(すべてのサービスで管理者/コンテキスト/パスワードが同じ、標準的なポートを使用するなど)は、クイックインストールを行った後で変更が必要なパラメータに変更を加えることにより、効率的に作業を行うことができます。

対話型インストールと非対話型インストールの選択

デフォルトでは、インストールスクリプトは各設定項目を入力するよう要求します。ただし、スクリプトにレスポンスファイルを参照させて、インストールプロセスを自動的に実行することもできます。

図 3 に、対話型インストールと非対話型インストールの比較を示します。

図 3 対話型インストールと非対話型インストール



- 1 NNLSをインストールするために、システム管理者はターゲットサーバ上でインストールスクリプトのinstall.shを実行します。
- 2 デフォルトでは、インストールスクリプトは対話モードで動作し、管理者による直接入力を要求します。
- 3 管理者は、応答ファイルを用意して、インストールスクリプトをサイレントモード(-sオプション)で実行することもできます。
- 4 応答ファイルを用意してサイレントモードを指定すると、インストールスクリプトは非対話的に動作します。
- 5 どちらのオプションでも、管理者はクイックインストールまたはカスタムインストールを実行できます。

対話的に NNLS をインストールするには、15 ページの「対話型のクイックインストールまたはカスタムインストールの実行」の手順に従います。

自動的に (対話的ではない方法で) NNLS をインストールするには、クイックインストールまたはカスタムインストール用のレスポンスファイルを準備する必要があります。詳細については、[15 ページの「対話型のクイックインストールまたはカスタムインストールの実行」](#)を参照してください。

表 1 を参照して、どちらのインストール方法が適当か決定してください。

表 1 対話型インストールと非対話型インストールの比較

対話型インストール	非対話型インストール
インストールを実行するユーザ (通常はシステム管理者) は、サーバにアクセスして、インストールに関する質問に答える必要があります。	システム管理者は、インストールを実行する前にレスポンスファイルを準備できます。そのため、インストールスクリプトは他のユーザが実行することもできます。
各インストールに必要な時間は、ほぼ同じです。	1 番目のファイルをテンプレートとして使用して、複数のレスポンスファイルを準備できます。同様の設定で複数の NNLS をインストールする場合、これは特に便利です。

2

Nterprise Linux Services のインストール

このセクションの指示は、初めてインストールスクリプトを実行する場合のみ適用されます。スクリプトを再実行して、NNLS サーバにインストールするコンポーネントを変更できます。詳細については、[付録 A「初期インストール後の install.sh の実行」\(27 ページ\)](#) を参照してください。

重要：インストールスクリプトを使用して、インストール済みのコンポーネントの設定を変更することはできません。

コンポーネントの設定を変更する必要がある場合は、『[Novell Nterprise Linux Services 概要・プランニング・インプリメンテーションガイド](#)』で該当するコンポーネントの保守に関する指示に含まれているリンクを参照してください。

Novell® Nterprise™ Linux Services をインストールする前に、[5 ページの「Nterprise Linux Services のインストールの準備」](#)に記載された製品要件およびその他の情報を検討することをお勧めします。

NNLS ソフトウェアと .nfk ファイルの入手

Novell Nterprise Linux Services のコピーを入手するには、Novell 認定リセラーに問い合わせるか、Novell の Web サイトの [Linux 製品ページ \(http://www.novell.com/ja-jp/products/linuxservices/\)](http://www.novell.com/ja-jp/products/linuxservices/) を参照してください。

次のファイルをダウンロードするための URL が記載された電子メールが送られてきます。

- ◆ インストール時に必要な eDirectory の NICI 基本キーファイル (*.nfk)
- ◆ *Novell_Nterprise_Linux_Services_1.0.iso*

Nterprise Linux Services を Linux サーバにインストールするためのファイルを格納した CD イメージが含まれています。

- ◆ *Novell_Nterprise_Linux_1.0_Companion_CD.iso*

次のものをインストールするためのファイルを格納した CD イメージが含まれています。

- ◆ Novell GroupWise Collaboration Client for Windows
- ◆ Windows および NetWare 用 Novell DirXML ドライバ
- ◆ Novell NetDrive クライアント

インストール用 NNLS ファイルの準備

Novell_Nterprise_Linux_Services_1.0.iso

このイメージを使用して NNLS ソフトウェアをインストールする方法は 2 つあります。

- ◆ イメージファイルを使用して CD を作成し、CD からインストールする
- ◆ ISO イメージをマウントして、マウントポイントからインストールする

イメージファイルを使用して CD を作成するには、次の手順に従います。

- 1 空の書き込み可能な CD を CD ドライブに挿入します。
- 2 イメージファイルから CD を作成するオプションを選択します。
- 3 ファイルタイプとして ISO を選択します。
- 4 ダウンロードした場所から NNLS の CD イメージファイル (Novell_Nterprise_Linux_Services_1.0.iso) を選択します。
- 5 CD 作成プロセスを完了させます。

これで、CD をインストールに使用できるようになりました。

ISO イメージをマウントするには、次の手順に従います。

- 1 インストール CD イメージに使用するマウントポイントを作成します。
次に例を示します。

```
mkdir -p /media/iso/Novell_Nterprise_Services_disk_1
```

- 2 ISO イメージをマウントします。

次のように入力します。

```
mount -o loop /path_to_the_ISO_image /path_to_the_desired_local_mount
```

path_to_the_ISO_image は ISO イメージファイルが保存されている場所へのパス、*path_to_the_desired_local_mount* はイメージをマウントする場所へのパスです。

たとえば、ISO ファイルを root ディレクトリに保存した場合に /media/iso/Novell_Nterprise_Linux_Services_disk_1 としてイメージをマウントするには、次のように入力します。

```
mount -o loop /root/Novell_Nterprise_Linux_Services_1.0.iso /media/iso/Novell_Nterprise_Linux_Services_disk_1
```

- 3 「cd/media/Novell_Nterprise_Linux_Services_disk_1」と入力します。

これで、マウントポイントをインストールに使用できるようになりました。

Novell_Nterprise_Linux_1.0_Companion_CD.iso

GroupWise® Collaboration Client、DirXML®、または NetDrive をインストールする場合は、NNLS Companion CD のイメージファイルが必要です。これらの製品のインストールについては、『Novell Nterprise Linux Services ラボガイド』と『Novell Nterprise Linux Services 概要・プランニング・インプリメンテーションガイド』を参照してください。

このイメージファイルを使用するには、CD に書き込む必要があります。

- 1 空の書き込み可能な CD を CD ドライブに挿入します。
- 2 イメージファイルから CD を作成するオプションを選択します。

- 3 ファイルタイプとして ISO を選択します。
- 4 ダウンロードした場所から NNLS Companion CD のイメージファイルを選択します。
- 5 CD 作成プロセスを完了させます。

これで、CD をインストールに使用できるようになりました。

NNLS インストールスクリプト (install.sh)

NNLS インストールスクリプトは、使用する設定ファイルまたはレスポンスファイルの場所の指定やサイレントモードでのインストールの実行など、各種のオプションをサポートしています。

使用できるオプションの詳細については、コマンドラインで次のように入力すると表示されるスクリプトのコマンドラインヘルプを参照してください。

```
./install.sh -h
```

対話型のクイックインストールまたはカスタムインストールの実行

- 1 Linux サーバのテキストコンソールで、CD からインストールしている場合は CD の root ディレクトリに、マウントした ISO イメージからインストールしている場合はマウントポイントディレクトリに移動します。

13 ページの「NNLS ソフトウェアと .nfs ファイルの入手」を参照してください。

- 2 次のコマンドを入力します。

```
./install.sh
```

- 3 インストールとアンインストールのどちらを行うか選択するよう要求するプロンプトが表示されたら、<Enter> キーを押します。

- 4 次のいずれかを行います。

- ◆ クイックインストールを行う場合は、「**y**」を入力して、**ステップ 6**に進みます。クイックインストールの詳細については、8 ページの「クイックインストールについて」を参照してください。
- ◆ カスタムインストールを行う場合は、<Enter> キーを押して、**ステップ 5**に進みます。

- 5 画面に表示されるオプションを使用して、インストールする製品を選択します。

- 6 ライセンス契約に合意します。

- 7 NCSI 基本キーファイルの場所を入力するよう要求するプロンプトが表示されたら、NCSI 基本キーファイルへのパスを入力します。

選択したコンポーネントについて情報が必要な場合は、29 ページの「NNLS プランニングワークシート」を参照してください。

インストールが完了したら、3 章「NNLS インストール後の手順」(19 ページ)に進みます。

非対話型のクイックインストールまたはカスタムインストールの実行

11 ページの 図 3 に示すように、非対話型インストールはクイックインストールとカスタムインストールのいずれにも使用できます。

重要: 非対話型インストールでは、`gettext.rpm` をサーバにインストールする必要があります。これをしないと、インストールは失敗します。31 ページの「システムソフトウェアの要件」を参照してください。

インストールスクリプトを実行する前に必要な情報を含むレスポンスファイルを準備することにより、NNLS のインストールを自動的に (対話的でない方法で) 実行できます。レスポンスファイルを正しく設定すると、製品をインストールするためにインストールスクリプトが必要とするすべての設定情報が提供されます。カスタムインストールとクイックインストールの両方について、テンプレートファイルが用意されています。このファイルをカスタマイズして、非対話型インストールを行うためのレスポンスファイルとして使用できます。

よく似た設定のサーバが複数ある場合、次のいずれかを行うことにより各サーバのレスポンスファイルを素早く作成できます。

- ◆ クイックインストール用またはカスタムインストール用のテンプレートからレスポンスファイルを作成して、サーバに固有の情報のみを変更する
- ◆ 1 番目のサーバで対話型インストールを実行し、`/etc/opt/novell` に作成された `enterprise_linux_services_install.conf` ファイルをテンプレートとして他のサーバでのインストールに使用する

重要: パスワードを含むすべてのパラメータを正しく指定する必要があります。パラメータを正しく指定しないと、非対話型インストールは失敗し、正しく指定されていない最初のパラメータが表示されます。インストールスクリプトは指定したパスワードを割り当てますが、インストールプロセスが終了した時点でこのパスワードは保存できる設定ファイルに書き込まれません。

- 1 実行するインストールタイプのテンプレートレスポンスファイルをダウンロードします。
 - ◆ [クイックインストール](http://www.novell.com/documentation/japanese/npls/answers/express.txt)
(<http://www.novell.com/documentation/japanese/npls/answers/express.txt>)
 - ◆ [カスタムインストール](http://www.novell.com/documentation/japanese/npls/answers/custom.txt)
(<http://www.novell.com/documentation/japanese/npls/answers/custom.txt>)

- 2 UNIX* の標準的なテキスト形式で保存できるテキストエディタでファイルを開きます。

必要な情報については、29 ページの「NNLS プランニングワークシート」を参照してください。

インストールを完了させる方法については、ファイルの初めにある指示を参照してください。

重要: 対話型インストールではプロセスが終わると `.conf` ファイルを保存できますが、非対話型インストールでは `.conf` ファイルは保存 (上書き) されません。

言い換えると、インストールの完了後に `.conf` ファイルがシステムに残るため、`.conf` ファイルを読むことができるユーザであれば `.conf` ファイルで指定したパスワードを参照できるということです。

このため、対話型インストールを実行した後で `.conf` ファイルを手動で削除します。

インストールイベントの記録

Nterprise Linux Services をインストールすると、インストール時に発生したすべてのイベントが自動的に次の場所に記録されます。

```
/var/log/nterprise_linux_services_install.log
```

ログファイルはプレーンテキストで、次の情報が記録されます。

- ◆ エラーメッセージ
- ◆ 警告
- ◆ インストールの各ステップの進捗状況
- ◆ ユーザの入力
- ◆ システム関連情報
- ◆ インストール関連の値 (デバッグ用など)

3

NNLS インストール後の手順

このセクションでは、インストールが正しく行われたことを確認する方法について説明します。また、インストールした製品を設定してネットワークで使用できるようにするための手順も説明します。

インストールの成功の確認

製品のインストール時にエラーが報告されなかった場合、インストールが成功したと考えることができます。

また、次のように Web ブラウザでサーバにアクセスすることによっても、素早く確認できます。

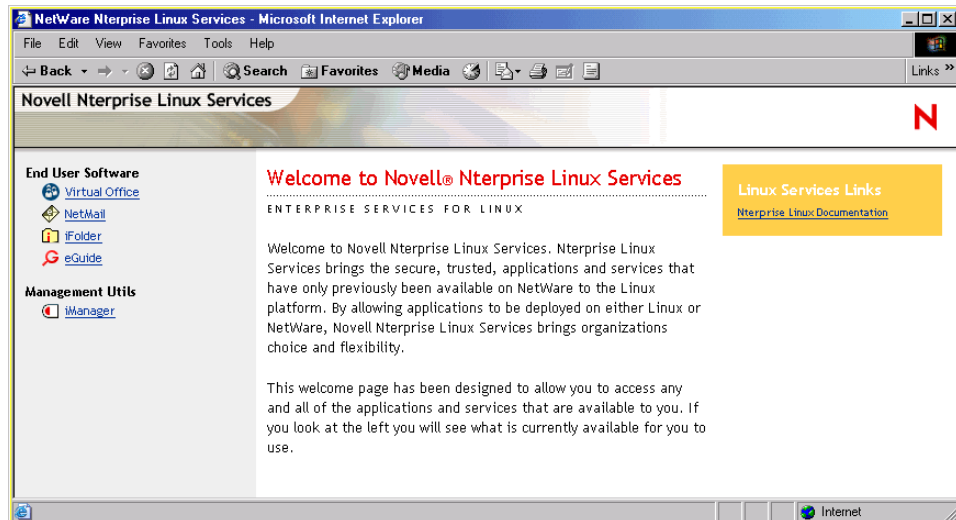
- 1 Web ブラウザのアドレスフィールドに次の URL を入力します。

`http://IP_or_DNS`

IP_or_DNS は、NNLS サーバの IP アドレスまたは DNS 名です。

次のような画面が表示されます。

図 4 NNLS の初期画面



重要: この時点では、[End User Software (エンドユーザソフトウェア)] リンクにアクセスしないでください。これらのサービスのほとんどは、『*Novell Nterprise Linux Services 概要・プランニング・インプリメンテーションガイド*』の説明に従ってさらに設定する必要があります。

- 2 (オプション) eDirectory™ のツリーを表示して iManager の動作を確認する場合は、[iManager] リンクをクリックして、製品のインストール時に作成した管理者ユーザとしてログインします。

インストール後の作業の完了

NNLS をインストールした後で、インストールした製品によっては、各サービスコンポーネントを使用できるようにするためにインストール後の作業を完了させる必要があります。

インストールした製品の使用を開始するために必要な情報については、『*Novell Nterprise Linux Services 概要・プランニング・インプリメンテーションガイド*』を参照してください。

4

NNLS のコンポーネントの更新

Novell® Resource Management は、Ximian® Red Carpet™ 技術を使用して NNLS サーバのソフトウェアを更新するための高度なメカニズムを提供します。複数の NNLS サーバをグループ化して同時に更新できるので、サーバを最新の状態に保つための作業が大幅に簡略化できます。

ZENworks® は、Novell Resource Management のための統合されたリソース管理ユーザインタフェースを提供します。

Novell Resource Management にアクセスするには、次の手順に従います。

- 1 Web ブラウザで、次の URL を入力して iManager にアクセスします。

`https://IP_or_DNS/nps/iManager`

IP_or_DNS は、NNLS サーバの IP アドレスまたは DNS 名です。

- 2 リソース管理役割をクリックします。

リソース管理役割にアクセスしたら、Novell Resource Management の使用方法の詳細について以下を参照します。

- [21 ページの「NNLS サーバのグループ化」](#)
- [22 ページの「ソフトウェアパッケージの更新」](#)

NNLS サーバのグループ化

NNLS サーバをグループ化することにより、グループ内にある 1 つ以上のサーバ上で簡単にパッケージを更新できます。グループの詳細情報は、Novell eDirectory™ の RCD グループオブジェクトに保存されます。NNLS サーバを RCD グループに追加すると、ソフトウェアパッケージを追加、削除、更新できるようになります。

RCD グループオブジェクトは、ツリー内のどこにでも配置できます。また、RCD グループは必要に応じていくつでも作成できます。

新しい RCD グループの作成

- 1 リソース管理役割の RCD グループの作成タスクをクリックします。
- 2 RCD グループオブジェクトの名前とコンテキストを指定します。
- 3 [OK] をクリックするとオブジェクトが作成されます。

RCD グループへの NNLS サーバの追加

- 1 リソース管理役割の RCD グループの変更タスクをクリックします。
- 2 RCD グループオブジェクトの名前を指定して、[OK] をクリックします。
[Modify RCD Group (RCD グループの変更)] ページが表示されます。

Modify myrcdgroup.novell ?

Device List

[New](#) | [Edit](#) | [Delete](#)

<input type="checkbox"/> Name	Type
<input type="checkbox"/> tpot12.novell	NCP

User List

[New](#) | [Edit](#) | [Delete](#)

<input type="checkbox"/> User Name	Rights
<input type="checkbox"/> admin.novell	Full

Done Cancel

[Device List (デバイスリスト)] セクションには、選択した RCD グループ内にあるすべての NNLS サーバが表示されます。[User List (ユーザリスト)] セクションには、このグループに対して権利を持っているすべてのユーザが表示されます。

- 3 このグループに NNLS サーバを追加するには、[Device List (デバイスリスト)] の下にある [New (新規)] をクリックし、NCP サーバを選択して、追加する NNLS サーバを表す NCP サーバオブジェクトへのパス (「mylnlserver.novell」 など) を指定します。
- 4 このグループへのユーザアクセスを許可するには、[User List (ユーザリスト)] の下にある [New (新規)] をクリックし、ユーザオブジェクトへのパスを指定して、許可するアクセスのタイプに応じて [Read (読み込み)] または [Full (フル)] をオンにします。

グループの変更が完了したら、次のセクションの **ソフトウェアパッケージの更新** に進んで、これらの NNLS サーバを更新します。

ソフトウェアパッケージの更新

ソフトウェアパッケージを追加、削除、または更新するには、RCD グループから 1 つ以上の NNLS サーバを選択するか、更新する各サーバのホスト情報を手動で指定します。

- ◆ 23 ページの「**RCD グループを使用するパッケージの管理**」
- ◆ 23 ページの「**スタンドアロンサーバのパッケージの管理**」

RCD グループを使用するパッケージの管理

- 1 リソース管理役割の RCD グループの管理タスクをクリックします。
- 2 RCD グループオブジェクトへのパスを指定して、[Get Devices (デバイスの取得)] をクリックします。
RCD グループ内にあるすべてのサーバが [Device List (デバイスリスト)] の下に表示されます。
- 3 管理するサーバを 1 つ以上選択して、[OK] をクリックします。
[Packages (パッケージ)] ページが表示され、選択したサーバに対するすべての更新が表示されます。
- 4 適用する更新を選択して、[Update (更新)] をクリックします。

スタンドアロンサーバのパッケージの管理

注：スタンドアロンサーバを管理するときに指定する情報は保存されないため、次にそのサーバのパッケージを管理する場合はもう一度入力する必要があります。

- 1 リソース管理役割のスタンドアロン RCD の管理タスクをクリックします。
- 2 [Connect (接続)] をクリックし、管理するサーバ上で動作している Red Carpet デーモンに関して必要な情報をすべて指定して、[OK] をクリックします。
- 3 (オプション) この時点で管理が必要な他のサーバについて、**ステップ 2**を繰り返します。
- 4 [OK] をクリックします。
[Packages (パッケージ)] ページが表示され、選択したサーバについてすべての更新が表示されます。
- 5 適用する更新を選択して、[Update (更新)] をクリックします。

Red Carpet デーモンを使用して、コマンドラインから各サーバを更新することもできます。Red Carpet デーモンの詳細については、Ximian サポートサイトにある『[Red Carpet 2.0 Software Manual \(http://www.ximian.com/support/\)](http://www.ximian.com/support/)』を参照するか、コマンドラインで「`man rug`」または「`man rcd`」と入力してください。

5

NNLS のコンポーネントのアンインストール

Novell® Nterprise™ Linux Services (NNLS) のコンポーネントのインストールとアンインストールには同じスクリプトを使用します。

NNLS のコンポーネントのアンインストール

- 1 コマンドラインで、使用したメディア作成方法に応じて、作成した CD の root またはマウントポイントの root に移動します。

14 ページの「インストール用 NNLS ファイルの準備」を参照してください。

- 2 次のコマンドを入力します。

```
./install.sh
```

- 3 「Selection」プロンプトで、uninstall (アンインストール) を意味する「u」を入力します。
- 4 画面に表示されるオプションを使用して、アンインストールするコンポーネントを選択します。

他のコンポーネントの実行に必要なコンポーネント (Apache Web サーバなど) を選択すると、依存関係があるコンポーネントのアンインストールが自動的に選択されます。これによって、NNLS のコンポーネント設定が無効になるのを防ぐことができます。

- 5 finished (完了) を意味する「f」を入力します。

選択した製品がアンインストールされます。

- 6 Apache と Tomcat がサーバ上で動作している場合は、これらを再起動する必要があります。システムプロンプトで root ユーザとして次のコマンドを入力します。

Apache の場合

```
/etc/init.d/novell-httpd restart
```

Tomcat の場合

```
/etc/init.d/novell-tomcat4 restart
```

iPrint のアンインストール

iPrint をアンインストールするには、次のコマンドを入力して、サーバ上で動作しているプロセスを停止させる必要があります。

```
/etc/init.d/novell-idsd stop
```

```
/etc/init.d/novell-ipsmd stop
```

次に、25 ページの「NNLS のコンポーネントのアンインストール」の説明に従ってアンインストール手順を実行します。

A

初期インストール後の install.sh の実行

5章「NNLSのコンポーネントのアンインストール」(25ページ)で説明したように、install.shを実行してNNLSのコンポーネントをアンインストールできます。

install.shを実行すると、サーバ上にインストールされていないNNLSのコンポーネントをインストールすることもできます。

初期インストール後にinstall.shを実行してNNLSのコンポーネントをインストールした場合、ApacheとTomcatを再起動する必要があります。システムプロンプトでrootユーザとして次のコマンドを入力します。

Apacheの場合

```
/etc/init.d/novell-httpd restart
```

Tomcatの場合

```
/etc/init.d/novell-tomcat4 restart
```


B

NNLS プランニングワークシート

NNLS をインストールする前に PDF バージョンのプランニングワークシートを印刷して、プランニングについて検討および記録することを強くお勧めします。

インストールを円滑に行うために、NNLS サーバに Linux オペレーティングシステムをインストールする前にも、このワークシートのすべてのセクションに記入することをお勧めします。

ワークシートについて

このワークシートは、次のプランニング作業に役立つことを目的としています。

- ◆ システムが NNLS の「[サーバのハードウェア要件](#)」(30 ページ)と「[システムソフトウェアの要件](#)」(31 ページ)を満たすことを保証する。

NNLS は、次のいずれかのプラットフォームにインストールします。

- ◆ Red Hat Enterprise Linux AS 2.1
- ◆ Red Hat Enterprise Linux ES 2.1
- ◆ SuSE Linux Enterprise Server 8.0

重要: Novell が正式に NNLS に関してサポートしているのはこれらの Linux ディストリビューションだけです。また、Novell の Red Carpet 更新チャンネルからパッチおよび更新を適用できるのはこれらのプラットフォームだけです。

- ◆ 目的のサービスを提供するために NNLS のコンポーネントについて必要な追加の「[サーバのハードウェア要件](#)」(30 ページ)(RAM、ディスク容量など)を識別する。これには、インストールを開始する前の「[ディスクパーティション](#)」(31 ページ)のプランニングも含まれます。
- ◆ 必要な通信ポートやファイアウォール関連の問題を識別して、NNLS を「[ファイアウォール](#)」(32 ページ)戦略に組み込む。

このワークシートには、「[インストールのプランニング](#)」(34 ページ)を初めとして、インストールスクリプトを実行するときに指定する必要があるパラメータの標準的な情報が含まれています。図 5 に、インストールワークシートの例を示します。

図 5 NCI 基本キーの情報が含まれているワークシートの例

NCI基本キー

- 1 インストールスクリプトのプロンプト: Please select the NCI Foundation Key (.nfc) file [/mnt/floppy] (NCI基本キー(.nfc)ファイルを選択してください[/mnt/floppy]):
- 2 .confファイルのディレクティブ: CONFIG_EDIR_NFK_FILE
- 3 説明: Novellから入手したNCI基本キーファイルのパスとファイル名です。install.shの実行中、このファイルにアクセスできるようにしておく必要があります。たとえば、ファイルがフロッピーディスク上にある場合、install.shを実行する前にフロッピーディスクをマウントしておきます。
- 4 指定できるパラメータ: Novellから入手した.nfcファイルの完全パスと名前です。たとえば、「/mnt/floppy/123456789.nfc」
- 5 プランニングしたパラメータ:

このインストールプランニングワークシートには、次のものが含まれています。

- 1 インストールスクリプト(install.sh)を実行すると表示される入力を要求するプロンプトです。
- 2 .Confファイルのディレクティブ名です。
 - 非対話型インストール時に入力を提供するために応答ファイルに記述されます。
 - インストールの完了後、nterprise_linux_services_install.confファイルに保存されます。

- 3 入力についての説明で、次の情報を提供します。
 - システムは何のために使用するかなど、入力の目的
 - NNLSのインストールの情報を提供する必要があるか
- 4 指定できるパラメータに関する簡単な説明です。
- 5 プランニングした入力パラメータを記入する場所です。

この例で参照しているセクションは、[36 ページの「NCI 基本キー」](#)です。

NNLS サーバ

以下のセクションでは、NNLS サーバの基本的な要件の概要について説明します。

サーバのハードウェア要件

NNLS は、次の要件を満たすコンピュータのみにインストールします。

- サーバクラスのコンピュータ

製造元とモデル: _____

- Pentium* II プロセッサ (1.5GHz の Pentium 4 を推奨)

プロセッサのモデルと速度: _____

- 512MB 以上の RAM (1GB を推奨)

必要な RAM の合計: _____

注: ここで示されている RAM の量は、システムコンポーネントのみで必要なものです。NNLS のサーバコンポーネントをインストールすることによって、さらに RAM が必要になります。

インストールする各コンポーネントに対して、『[Novell Nterprise Linux Services 概要・プランニング・インプリメンテーションガイド](#)』のプランニング指示を完了させてください。プランニングプロセスで、このワークシートを使用して必要な追加 RAM を記録するよう指示されます。

- 30GB の空きディスク容量

必要なディスク容量の合計: _____

注: ここで示されているディスク容量は、システムコンポーネントのみで必要なものです。NNLS のサービスコンポーネント (ファイルサービスなど) をインストールすることによって、さらにディスク容量が必要になります。

インストールする各コンポーネントに対して、『Novell Nterprise Linux Services 概要・プランニング・インプリメンテーションガイド』のプランニング指示を完了させてください。プランニングプロセスで、このワークシートを使用して必要な追加ディスク容量を記録するよう指示されます。

システムソフトウェアの要件

重要: NNLS は、付随するユーティリティなどとともに新しくインストールされたオペレーティングシステムのみが含まれるサーバにインストールする必要があります。

- 次のいずれかのオペレーティングシステムを使用します。
 - ◆ Red Hat Enterprise Linux AS 2.1
 - ◆ Red Hat Enterprise Linux ES 2.1
 - ◆ SuSE Linux Enterprise Server 8.0
- gettext RPM (eDirectory™ が正しく機能するために必要)

サーバのネットワーク構成

重要: 6 ページの「静的な IP アドレスを使用する」で説明したように、NNLS サーバでは静的な IP アドレスを使用する必要があります。

- ◆ Linux サーバの IP アドレス (10.1.1.123 など): _____
- ◆ ホスト名 (myserver など): _____

重要: オペレーティングシステムをインストールするときは、ホスト名のみを指定します。名前には DNS コンテキストを含めません。myserver.mycompany.com のようには指定しません。

- ◆ ホスト名の DNS コンテキスト (mycompany.com など): _____
- ◆ サブネットマスク (255.255.255.0 など): _____
- ◆ デフォルトのゲートウェイ (10.1.1.1 など): _____
- ◆ プライマリ DNS サーバ (10.1.1.2 など): _____

ディスクパーティション

表 2 に、NNLS サーバ上にディスクパーティションを設定するためのガイドラインを示します。

表 2 パーティション要件

パーティション	最小ディスク容量	その他の注意事項	プランニングした割り当て
/boot	*	* 選択したオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。	
/swap	*	* 通常、サーバに搭載した RAM の 2 倍のサイズ、最大 1GB とします。 詳細については、選択したオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。	

パーティション	最小ディスク容量	その他の注意事項	プランニングした割り当て
/	*	<p>* 最も簡単なパーティション設定方法は、残りのすべてのディスク容量をこのパーティションに含めるやり方です。サブパーティション (/var、/opt、/usr、/etc、/home) の領域は、パーティションを拡張すると自動的に使用できるようになります。</p> <p>以下の行 (/var、/opt、and /usr) に示すようにパーティションを設定する場合は、このパーティションを最後に設定して、残りの未使用ディスク容量をすべてここに割り当ててます。</p>	
/var	350MB	このパーティションを別にして設定して Novell® iFolder® をインストールする場合、デフォルトでは、iFolder のユーザデータはこのパーティションに保存されることに留意してください。	
/opt	250MB		
/usr	310MB		

ファイアウォール

表 3 に、NNLS で使用するデフォルトのポートを示します。これ以外のポートを使用する場合は、この表にメモしておきます。この情報は、NNLS をファイアウォールと統合するときに必要になります。

表 3

ポート番号	製品	プロトコル
80	Apache Web サーバ	HTTP
443	セキュリティ保護された Apache Web サーバ	HTTPS (SSL)
8008	eDirectory iMonitor	HTTP
8010	セキュリティ保護された eDirectory iMonitor	HTTPS (SSL)
8018	NetMail WebAdmin	HTTP
8020	セキュリティ保護された NetMail WebAdmin	HTTPS (SSL)
52389	NetMail™ LDAP サーバ	LDAP
52080	NetMail ModWeb	HTTP
52443	セキュリティ保護された NetMail ModWeb	HTTPS (SSL)
1026	NetMail CAP	CAP (Calendar Access Protocol)
25	NetMail SMTP エージェント	SMTP (セキュリティ保護されたものとそうでないものの両方)
110	NetMail POP エージェント	POP3

ポート番号	製品	プロトコル
995	セキュリティ保護された NetMail POP エージェント	POP3 (SSL) これはデフォルトでは設定されません。参照用としてのみ記載しています。
143	NetMail IMAP エージェント	IMAP4
993	セキュリティ保護された NetMail IMAP エージェント	IMAP4 (SSL) これはデフォルトでは設定されません。参照用としてのみ記載しています。
689	NetMail NMAP エージェント UDP	NMAP これはデフォルトでは設定されません。参照用としてのみ記載しています。
689	NetMail NMAP エージェント TCP	NMAP
389	eDirectory™ LDAP サーバ	LDAP
636	セキュリティ保護された eDirectory LDAP サーバ	LDAP (SSL)
631	iPrint IPP サーバ	IPP
443	セキュリティ保護された iPrint IPP サーバ	IPP (SSL)
137	Samba	CIFS/SMB
138	Samba	CIFS/SMB
139	Samba	CIFS/SMB
8080	Tomcat	HTTP
8009	MOD_JK	MOD_JK
524	eDirectory	NDAP

既存の Apache Web サーバ

NNLS をインストールするサーバ上で Apache Web サーバがすでに動作している場合、NNLS をインストールするとサーバは無効となりシャットダウンされてしまいます。ただし、サーバがアンインストールされることはありません。

NNLS と共にインストールされる Apache Web サーバでは、標準のポート 80 および 443 を使用する必要があります。サーバの設定ファイルは /etc/opt/novell/httpd/ にインストールされ、ドキュメントルートは /var/opt/novell/httpd/htdocs に設定されます。

NNLS の Apache サーバに加えてすでにインストールされている Apache サーバも実行するには、既存の Apache サーバが使用するポートを変更し、システムの起動時に動作するようにサーバを再び有効にしてから、再起動する必要があります。

インストールのプランニング

新しい eDirectory ツリーに 1 番目のサーバをインストールする場合は、**36 ページの「eDirectory」**に進んでください。そうでない場合は、**34 ページの「既存のツリーへのインストールのプランニング」**から開始します。

インストールのプランニングには、以下のセクションで説明する作業が含まれます。

- ◆ **34 ページの「既存のツリーへのインストールのプランニング」**
- ◆ **34 ページの「eDirectory の設定のデフォルトは単一サーバ」**
- ◆ **35 ページの「デフォルト以外の設定の指定」**
- ◆ **36 ページの「eDirectory の認証設定の変更」**
- ◆ **36 ページの「eDirectory」**
- ◆ **40 ページの「Linux User Management」**
- ◆ **43 ページの「DirXML スタータパック」**
- ◆ **45 ページの「eGuide」**
- ◆ **46 ページの「Samba」**
- ◆ **50 ページの「iFolder」**
- ◆ **52 ページの「NetMail」**
- ◆ **55 ページの「iManager」**
- ◆ **57 ページの「iPrint」**
- ◆ **58 ページの「Virtual Office」**
- ◆ **61 ページの「Red Carpet」**

既存のツリーへのインストールのプランニング

このセクションの説明は、既存の eDirectory ツリーに NNLS サーバをインストールする場合に常に適用されます。

これには、NetWare[®] や Windows* 2000 などの他のプラットフォームに eDirectory をインストールしたときに作成したツリー内にある 1 番目の NNLS サーバ、また NNLS をインストールして作成されたツリー内にインストールした 2 番目や 3 番目の NNLS サーバが含まれます。

eDirectory の設定のデフォルトは単一サーバ

1 番目のサーバを簡単に新しいツリーにインストールするために、インストールスクリプトではすでに入力した eDirectory の情報を、続いてインストールする各 eDirectory のパラメータのデフォルトとして使用します。

これは、NNLS を既存の eDirectory ツリーにインストールする場合にも適用されます。

1. **「ツリー名」(37 ページ)** の入力を要求するプロンプトの後で次のプロンプトが表示され、**「既存の eDirectory サーバ IP アドレス」(37 ページ)** の入力が要求されます。

Enter the Existing Server IP Address
(既存のサーバ IP アドレスを入力してください):

2. 入力した IP アドレスまたは DNS 名は、入力した管理者ユーザの名前およびパスワードを使用するターゲットツリーとの接続の確立に使用されます。
この接続は、スキーマの拡張やオブジェクトの作成など eDirectory のインストール操作に必要です。
3. 表 4 に概略を示すように、この IP アドレスまたは DNS 名は、他の eDirectory 設定のデフォルトとして使用されます。

表 4

NNLS のコンポーネント	ワークシートの項目	目的
Linux User Management	「LDAP サーバの IP アドレス」(40 ページ)	インストール LUM のユーザ認証の設定
DirXML [®] スタータパック	「eDirectory サーバ」(43 ページ)	インストール
eGuide	「LDAP サーバの IP アドレスまたはホスト名」(45 ページ)	eGuide のユーザ認証の設定
Samba	「eDirectory サーバの IP アドレスまたはホスト名」(46 ページ)	インストール
Samba	「LDAP サーバの IP アドレスまたはホスト名」(47 ページ)	Samba のユーザ認証の設定
iFolder	「eDirectory サーバの IP アドレスまたは DNS ホスト名」(50 ページ)	インストール iFolder のユーザ認証の設定
iManager	「LDAP サーバの IP アドレスまたはホスト名」(56 ページ)	iManager のユーザ認証の設定
iPrint	「iPrint サーバの IP アドレスまたはホスト名」(58 ページ)	インストール
Virtual Office	「eDirectory サーバの IP アドレスまたはホスト名」(58 ページ)	インストール
NetStorage	「NetStorage 認証サーバ」(59 ページ)	Novell NetStorage [™] のユーザ認証の設定

重要: アドレスをインストールのために使用する場合、スキーマの拡張などインストール関連の操作を可能にするために、インストールした eDirectory のマスタレプリカまたは読み込み / 書き込みレプリカがある eDirectory サーバをアドレスに参照させる必要があります。

これに対して、認証要求を処理するサーバにも eDirectory をインストールしておく必要はありますが、マスタレプリカまたは読み込み / 書き込みレプリカを含める必要はありません。

デフォルト以外の設定の指定

ツリー内に 2 番目以降のサーバをインストールするときに、インストールスクリプトによって表示されるデフォルトの eDirectory のアドレスまたは名前を、インストール中のコンポーネントのインストール要件または認証要件を満たす eDirectory サーバのアドレスまたは名前に変更することが必要な場合があります。

eDirectory の認証設定の変更

サービスをインストールした後で eDirectory の認証設定を変更する必要がある場合は、『[Novell Nterprise Linux Services 概要・プランニング・インプリメンテーションガイド](#)』の「[NNLS のインストール時に作成されたサービス認証設定の変更](#)」を参照してください。

eDirectory

NICI 基本キー

インストールスクリプトのプロンプト: Please select the NICI Foundation Key (.nfk) file [/mnt/floppy]
(NICI 基本キー (.nfk) ファイルを選択してください [/mnt/floppy]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_EDIR_NFK_FILE

説明: Novell から入手した NICI 基本キーのパスとファイル名です。install.sh の実行中は、このファイルにアクセスする必要があります。

指定できるパラメータ: Novell から入手した .nfk ファイルの完全パスと名前。

プランニングしたパラメータ:

ツリーのタイプ

インストールスクリプトのプロンプト: Selection [New Tree] (選択してください [New Tree]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_EDIR_TREE_TYPE

説明: eDirectory のインストールで新しいツリーをネットワーク上に作成するか、既存ツリーの一部にするかを指定します。

指定できるパラメータ: Existing Tree、New Tree

プランニングしたパラメータ:

システムクロックの同期

インストールスクリプトのプロンプト: Is the system clock synchronized with the existing tree? [yes]
(システムクロックは既存のツリーと同期していますか? [yes]):

.conf ファイルのディレクティブ: なし

説明: 既存のツリーに追加する場合のみ表示されます。この場合、追加しているツリーと同じ方法(タイムサーバなど)で、新しい NNLS サーバのシステムクロックを同期させる必要があります。

このプロンプトに対応するディレクティブはありません。非対話型インストールでは、NNLS をインストールする前にシステムクロックを同期させたものと見なされます。

ツリー名

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the new tree name (新しいツリー名を入力してください):

または

Enter the existing tree name (既存のツリー名を入力してください):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_EDIR_TREE_NAME

説明: eDirectory のインストールで使用するツリーの名前です。

「ツリーのタイプ」(36 ページ) (CONFIG_EDIR_TREE_TYPE) を「New Tree」に設定した場合は、新しいツリーのネットワーク固有名を指定する必要があります。「Existing Tree」に設定した場合は、ネットワーク上にある既存のアクセス可能なツリーの名前を指定する必要があります。

指定できるパラメータ: 有効な eDirectory ツリー名。

プランニングしたパラメータ:

eDirectory サーバポート

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the eDirectory Server Port [524]
(eDirectory サーバポートを入力してください [524]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_EDIR_EXISTING_PORT

説明: このポートは、eDirectory サーバがネットワーク通信に使用します。

指定できるパラメータ: 有効なポート番号 (デフォルトは 524)。

プランニングしたパラメータ:

既存の eDirectory サーバ IP アドレス

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the existing server IP address or DNS hostname
(既存のサーバ IP アドレスまたは DNS ホスト名を入力してください):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_EDIR_EXISTING_IP

説明: **「ツリー名」(37 ページ)** (CONFIG_EDIR_TREE_NAME) で参照する既存のツリーを含む eDirectory サーバのプライマリ IP アドレスです。

このディレクティブは、**「ツリーのタイプ」(36 ページ)** (CONFIG_EDIR_TREE_TYPE) を「Existing Tree」に設定した場合のみ使用されます。

指定できるパラメータ: 指定した既存ツリーを含む eDirectory サーバのプライマリ IP アドレス。

プランニングしたパラメータ:

eDirectory 管理者の名前とコンテキスト

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the FDN admin name with context (i.e., cn=admin.o=novell)
(管理者の完全識別名とコンテキストを入力してください (cn=admin.o=novell
など)):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_EDIR_ADMIN_CONTEXT

説明: タイプフル構文 (cn=name.ou=organizational_unit.o=organization) を使用して指定した、eDirectory ツリーにおける管理者の名前と完全識別コンテキストです。

新しいツリーを作成すると、この管理者はそのツリーに対する管理権を与られます。eDirectory を既存のツリーにインストールする場合は、そのツリーに対する管理権を持っているユーザオブジェクトの名前とコンテキストを指定する必要があります。

指定できるパラメータ: 有効な管理者の名前とコンテキスト。

プランニングしたパラメータ:

管理者のパスワード

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the admin password (管理者のパスワードを入力してください):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_EDIR_ADMIN_PASSWORD

説明: 「eDirectory 管理者の名前とコンテキスト」(38 ページ)
(CONFIG_EDIR_ADMIN_CONTEXT) で指定した管理者のパスワードです。

このファイルをプランニングワークシートとして使用して、パスワードを記入した場合、パスワードを安全に保護するためにプランニングワークシートを安全な場所に保管する必要があります。

この指示に従ってレスポンスファイルを作成する場合、レスポンスファイルでパスワードを指定する必要があります。インストールスクリプトによって指定したパスワードが割り当てられますが、インストールプロセスが終了した時点でこのパスワードは保存できる設定ファイルに書き込まれません。レスポンスファイルの詳細については、16 ページの「非対話型のクイックインストールまたはカスタムインストールの実行」を参照してください。

指定できるパラメータ: 管理者ユーザのパスワード。

プランニングしたパラメータ:

サーバの eDirectory コンテキスト

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the server context [default server context]
(サーバのコンテキストを入力してください[デフォルトのサーバコンテキスト]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_EDIR_SERVER_CONTEXT

説明: タイプフル構文 (ou=organizational_unit.o=organization) を使用して指定した、このサーバのオブジェクトを作成した eDirectory コンテキストです。

新しいツリーを作成するか既存のツリーにインストールするかに関係なく、このコンテキストは作成されます。

指定できるパラメータ: eDirectory ツリー内の有効なコンテキスト。

プランニングしたパラメータ:

LDAP ポート番号

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the LDAP port number [389] (LDAP ポート番号を入力してください [389]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_EDIR_LDAP_PORT

説明: eDirectory との LDAP 通信にサーバが使用するネットワークポートです。

指定できるパラメータ: 有効なポート番号 (デフォルトは 389)。

プランニングしたパラメータ:

セキュリティ保護された LDAP ポート番号

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the secure LDAP port number [636]
(セキュリティ保護された LDAP ポート番号を入力してください [636]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_EDIR_LDAP_SECURE_PORT

説明: eDirectory とのセキュリティ保護された LDAP 通信にサーバが使用するネットワークポートです。

指定できるパラメータ: 有効なポート番号 (デフォルトは 636)。

プランニングしたパラメータ:

iMonitor の HTTP ポート番号

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the iMonitor HTTP port number [8008]
(iMonitor の HTTP ポート番号を入力してください [8008]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_EDIR_HTTP_PORT

説明: 管理者が iMonitor を使用して eDirectory ツリー内にあるサーバの監視と管理を行うための HTTP ネットワークポートです。

指定できるパラメータ: 有効なポート番号 (デフォルトは 8008)。

プランニングしたパラメータ:

iMonitor の HTTPS ポート番号

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the iMonitor HTTPS port number [8010]
(iMonitor の HTTPS ポート番号を入力してください [8010]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_EDIR_HTTPS_PORT

説明: 管理者が iMonitor を使用して eDirectory ツリー内にあるサーバの監視と管理を行うための HTTPS ネットワークポートです。

指定できるパラメータ: 有効なポート番号 (デフォルトは 8010)。

プランニングしたパラメータ:

Linux User Management

LDAP サーバの IP アドレス

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the LDAP server IP address or DNS hostname [*default LDAP server*]
(LDAP サーバの IP アドレスまたは DNS ホスト名を入力してください [デフォルトの LDAP サーバ]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_LUM_EDIR_IP_ADDR

説明: Linux User Management のための eDirectory サーバのプライマリ IP アドレスです。このサーバは、次の処理に使用されます。

- ◆ この NNLS サーバへのアクセスに LDAP を使用して、指定されたサーバに対する Linux ユーザの認証を行う。
- ◆ 指定された eDirectory サーバで、Linux User Management オブジェクトと設定情報を作成、保存、管理する。

サーバには、インストールした eDirectory のマスタレプリカまたは読み込み / 書き込みレプリカが必要です。

指定できるパラメータ: eDirectory サーバの IP アドレス。

プランニングしたパラメータ:

管理者の名前とコンテキスト

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the admin name with context [admin name with context]
(管理者の名前とコンテキストを入力してください[*管理者の名前とコンテキスト*]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_LUM_ADMIN_FDN

説明: 「LDAP サーバの IP アドレス」(40 ページ) (CONFIG_LUM_EDIR_IP_ADDR) で指定した eDirectory サーバ上で管理権を持つユーザオブジェクトの完全識別名です。

名前とコンテキストの指定には、タイプフル構文 (cn=name.ou=organizational_unit.o=organization) を使用する必要があります。

指定できるパラメータ: 「説明」で説明した、管理者ユーザオブジェクトの名前と完全識別コンテキスト。

プランニングしたパラメータ:

管理者のパスワード

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the admin password [*****]
(管理者のパスワードを入力してください[*****]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_LUM_ADMIN_PASSWORD

説明: 「管理者の名前とコンテキスト」(41 ページ) (CONFIG_LUM_ADMIN_FDN) で指定したユーザオブジェクトのパスワードです。

指定できるパラメータ: 管理者ユーザのパスワード。

プランニングしたパラメータ:

LDAP ポート

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the LDAP port number [389] (LDAP ポート番号を入力してください [389]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_LUM_LDAP_PORT

説明: この NNLS サーバへのアクセスに関して、「LDAP サーバの IP アドレス」(40 ページ) (CONFIG_LUM_EDIR_IP_ADDR) で指定した eDirectory サーバに対して LUM ユーザを認証するための LDAP ポートです。

指定できるパラメータ: 有効な LDAP ポート番号 (デフォルトは 389)。

プランニングしたパラメータ:

セキュリティ保護された LDAP ポート

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the secure LDAP port number [636]
(セキュリティ保護された LDAP ポート番号を入力してください [636]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_LUM_LDAPS_PORT

説明: この NNLS サーバへのアクセスに関して、「LDAP サーバの IP アドレス」(40 ページ) (CONFIG_LUM_EDIR_IP_ADDR) で指定した eDirectory サーバに対して LUM ユーザを認証するためのセキュリティ保護された LDAP ポートです。

指定できるパラメータ: 有効なセキュリティ保護された LDAP ポート番号 (デフォルトは 636)。

プランニングしたパラメータ:

LDAP 検索のベースコンテキスト

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the partition root [*partition root*]
(パーティションルートを入力してください [パーティションルート]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_LUM_PARTITION_ROOT

説明: 「LDAP サーバの IP アドレス」(40 ページ) (CONFIG_LUM_EDIR_IP_ADDR) で指定した LDAP サーバ上でのユーザ、グループ、およびワークステーションオブジェクトの LDAP 検索で使用するベースコンテキストです。

このコンテキストは、ツリー内の LUM ユーザ、LUM グループ、および LUM ワークステーションオブジェクトと同じかそれ以上のレベルである必要があります。

コンテキストの指定には、タイプフル構文(ou=organizational_unit.o=organization)を使用する必要があります。

指定できるパラメータ: 指定した eDirectory サーバ上の有効なコンテキスト。

プランニングしたパラメータ:

ワークステーションオブジェクトのコンテキスト

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the workstation context [*default context*]
(ワークステーションのコンテキストを入力してください [デフォルトのコンテキスト]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_LUM_WS_CONTEXT

説明: インストールで LUM ワークステーションオブジェクトを作成した eDirectory ツリー内の場所です。

このコンテキストは、ツリー内にインストールした各サーバによって異なっても問題はありませんが、「LDAP 検索のベースコンテキスト」(42 ページ) (CONFIG_LUM_PARTITION_ROOT) で指定したコンテキスト内またはそれ以下である必要があります。

コンテキストの指定には、タイプフル構文(ou=organizational_unit.o=organization)を使用する必要があります。

指定できるパラメータ: 指定した eDirectory サーバ上の有効なコンテキスト。

プランニングしたパラメータ:

PAM 対応サービス

インストールスクリプトのプロンプト: Select PAM-enabled services that you want to make accessible to users who authenticate through eDirectory. (eDirectory で認証されたユーザがアクセスできる PAM 対応サービスを選択してください。)

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_LUM_SERVICE_LOGIN
CONFIG_LUM_SERVICE_FTP
CONFIG_LUM_SERVICE_SSHD
CONFIG_LUM_SERVICE_SU
CONFIG_LUM_SERVICE_RSH
CONFIG_LUM_SERVICE_RLOGIN
CONFIG_LUM_SERVICE_PASSWD

説明: 認証を受けた LUM ユーザが使用できる、このサーバ上の PAM 対応サービスです。

指定できるパラメータ: yes、no

プランニングしたパラメータ:

<input type="checkbox"/> login
<input type="checkbox"/> ftp
<input type="checkbox"/> sshd
<input type="checkbox"/> su
<input type="checkbox"/> rsh
<input type="checkbox"/> rlogin
<input type="checkbox"/> passwd

DirXML スタータパック

eDirectory サーバ

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the eDirectory server IP address or DNS hostname [default server] (eDirectory サーバの IP アドレスまたは DNS ホスト名を入力してください [デフォルトのサーバ]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_DIRXML_HOST

説明: DirXML® と共に使用する eDirectory サーバの IP アドレスまたは DNS ホスト名です。

サーバには、インストールした eDirectory のマスタレプリカまたは読み込み / 書き込みレプリカが必要です。

指定できるパラメータ: 新しいツリーを含む NNLS サーバ、または既存の eDirectory サーバの有効な IP アドレス。

プランニングしたパラメータ:

管理者の名前とコンテキスト

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the admin name with context [admin name with context] (管理者の名前とコンテキストを入力してください [管理者の名前とコンテキスト]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_DIRXML_ADMIN_CONTEXT

説明: 「eDirectoryサーバ」(43 ページ) (CONFIG_DIRXML_HOST) で指定した eDirectory サーバ上で管理権を持つユーザオブジェクトの完全識別名です。

名前とコンテキストの指定には、タイプフル構文 (cn=name.ou=organizational_unit.o=organization) を使用する必要があります。

指定できるパラメータ: 「説明」で説明した、管理者の名前と完全識別コンテキスト。

プランニングしたパラメータ:

管理者のパスワード

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the admin password [*****]
(管理者のパスワードを入力してください [*****]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_DIRXML_ADMIN_PASSWORD

説明: 「管理者の名前とコンテキスト」(44 ページ) (CONFIG_DIRXML_ADMIN_CONTEXT) で指定したユーザのパスワードです。

指定できるパラメータ: 管理者ユーザのパスワード。

プランニングしたパラメータ:

セキュリティ保護された LDAP ポート番号

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the secure LDAP port number [636]
(セキュリティ保護された LDAP ポート番号を入力してください [636]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_DIRXML_LDAP_SECURE_PORT

説明: 「eDirectoryサーバ」(43 ページ) (CONFIG_DIRXML_HOST) で指定した eDirectory サーバと NNLS サーバが通信するためのセキュリティ保護された LDAP ポート番号です。

指定できるパラメータ: 有効なセキュリティ保護された LDAP ポート番号 (デフォルトは 636)。

プランニングしたパラメータ:

eGuide

LDAP サーバの IP アドレスまたはホスト名

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the LDAP server IP address or DNS hostname [default LDAP server] (LDAP サーバの IP アドレスまたは DNS ホスト名を入力してください [デフォルトの LDAP サーバ]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_EGUIDE_EDIR_HOST

説明: eGuideユーザが認証を受けるeDirectoryサーバのIPアドレスまたはホスト名です。

指定できるパラメータ: 有効な IP アドレスまたは DNS ホスト名。

プランニングしたパラメータ:

LDAP ポート番号

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the LDAP port number [389] (LDAP ポート番号を入力してください [389]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_EGUIDE_EDIR_LDAP_PORT

説明: 「LDAP サーバの IP アドレスまたはホスト名」(45 ページ) (CONFIG_EGUIDE_EDIR_HOST) で指定した eDirectory サーバと NNLS サーバが通信するための LDAP ポート番号です。

指定できるパラメータ: 有効な LDAP ポート番号 (デフォルトは 389)。

プランニングしたパラメータ:

セキュリティ保護された LDAP ポート番号

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the secure LDAP port number [636] (セキュリティ保護された LDAP ポート番号を入力してください [636]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_EGUIDE_EDIR_LDAPS_PORT

説明: 「LDAP サーバの IP アドレスまたはホスト名」(45 ページ) (CONFIG_EGUIDE_EDIR_HOST) で指定した eDirectory サーバと NNLS サーバが通信するためのセキュリティ保護された LDAP ポート番号です。

指定できるパラメータ: 有効なセキュリティ保護された LDAP ポート番号 (デフォルトは 636)。

プランニングしたパラメータ:

LDAP 管理者の名前とコンテキスト

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the LDAP Admin name with context [LDAP admin name with context]
(LDAP 管理者の名前とコンテキストを入力してください [LDAP 管理者の名前とコンテキスト]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_EGUIDE_ADMIN_CONTEXT

説明: 「LDAP サーバの IP アドレスまたはホスト名」(45 ページ)
(CONFIG_EGUIDE_EDIR_HOST) で指定した eDirectory サーバ上で管理権を持つユーザオブジェクトの完全識別名です。

この管理者ユーザは、eDirectory で eGuide を管理します。また、LDAP ツリーで eGuide ユーザを検索するためのプロキシユーザとしても使用されます。

指定できるパラメータ: 「説明」で説明した、ユーザの完全識別名。

プランニングしたパラメータ:

LDAP 管理者のパスワード

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the LDAP admin password [*****]
(LDAP 管理者のパスワードを入力してください [*****]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_EGUIDE_EDIR_ADMIN_PASSWORD

説明: 「LDAP 管理者の名前とコンテキスト」(46 ページ)
(CONFIG_EGUIDE_ADMIN_CONTEXT) で指定したユーザのパスワードです。

指定できるパラメータ: 管理者ユーザのパスワード。

プランニングしたパラメータ:

Samba

eDirectory サーバの IP アドレスまたはホスト名

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the eDirectory server IP address or DNS hostname [default server]
(eDirectory サーバの IP アドレスまたは DNS ホスト名を入力してください [デフォルトのサーバ]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_SAMBA_EDIR_SERVER_HOST

説明: 今回インストールする Samba のために eDirectory スキーマを拡張する eDirectory サーバのプライマリ IP アドレスまたは DNS ホスト名です。

サーバには、インストールした eDirectory のマスタレプリカまたは読み込み / 書き込みレプリカが必要です。

指定できるパラメータ: eDirectory サーバの IP アドレス。

プランニングしたパラメータ:

管理者の名前とコンテキスト

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the admin name with context [admin name with context] (管理者の名前とコンテキストを入力してください [管理者の名前とコンテキスト]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_SAMBA_ADMIN_CONTEXT

説明: 「eDirectory サーバの IP アドレスまたはホスト名」(46 ページ)
(CONFIG_SAMBA_EDIR_SERVER_HOST) で指定した eDirectory サーバ上で管理権を持つユーザの完全識別名です。この管理者ユーザは、eDirectory スキーマを拡張する権利を持っている必要があります。

名前とコンテキストの指定には、タイプフル構文 (cn=name.ou=organizational_unit.o=organization) を使用する必要があります。

指定できるパラメータ: 「説明」で説明した、ユーザの名前と完全識別コンテキスト。

プランニングしたパラメータ:

管理者のパスワード

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the admin password [*****]
(管理者のパスワードを入力してください [*****]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_SAMBA_ADMIN_PASSWORD

説明: 「管理者の名前とコンテキスト」(47 ページ)
(CONFIG_SAMBA_ADMIN_CONTEXT) で指定したユーザのパスワードです。

指定できるパラメータ: 管理者ユーザのパスワード。

プランニングしたパラメータ:

LDAP サーバの IP アドレスまたはホスト名

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the LDAP server IP address or DNS hostname [default LDAP server]
(LDAP サーバの IP アドレスまたは DNS ホスト名を入力してください [デフォルトの LDAP サーバ]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_SAMBA_LDAP_HOST

説明: この NNLS サーバ上にあるディレクトリとファイルへのアクセスに LDAP を使用して CIFS クライアントユーザ (Windows ユーザなど) を認証する LDAP サーバのプライマリ IP アドレスです。

指定できるパラメータ: LDAP サーバの IP アドレス。

プランニングしたパラメータ:

LDAP プロキシユーザ名

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the Samba Proxy username with context [LDAP proxy username with context] (Samba プロキシユーザの名前とコンテキストを入力してください [LDAP プロキシユーザの名前とコンテキスト]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_SAMBA_PROXY_USER_CONTEXT

説明: LDAP ツリーで Samba ユーザを検索する権利を持っている、「LDAP サーバの IP アドレスまたはホスト名」(47 ページ) (CONFIG_SAMBA_LDAP_HOST) で指定した LDAP サーバ上のユーザです。

名前とコンテキストの指定には、タイプフル構文 (cn=name.ou=organizational_unit.o=organization) を使用する必要があります。

指定できるパラメータ: 「説明」で説明した、プロキシユーザの名前と完全識別コンテキスト。

プランニングしたパラメータ:

LDAP プロキシユーザのパスワード

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the Samba Proxy user password [*****] (Samba プロキシユーザのパスワードを入力してください [*****]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_SAMBA_PROXY_USER_PASSWORD

説明: 「LDAP プロキシユーザ名」(48 ページ) (CONFIG_SAMBA_PROXY_USER_CONTEXT) で指定した Samba プロキシユーザのパスワードです。

指定できるパラメータ: プロキシユーザのパスワード。

プランニングしたパラメータ:

LDAP ポート番号

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the LDAP port number [389] (LDAP ポート番号を入力してください [389]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_SAMBA_LDAP_PORT

説明: この NNLS サーバ上にあるディレクトリとファイルへのアクセスに関して、「LDAP サーバの IP アドレスまたはホスト名」(47 ページ) で指定した LDAP サーバに対して Windows ユーザを認証するための LDAP ポートです。

指定できるパラメータ: 有効な LDAP ポート番号 (デフォルトは 389)。

プランニングしたパラメータ:

セキュリティ保護された LDAP ポート番号

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the secure LDAP port number [636]
(セキュリティ保護された LDAP ポート番号を入力してください [636]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_SAMBA_LDAP_SSL_PORT

説明: この NNLS サーバ上にあるディレクトリとファイルへのアクセスに関して、「LDAP サーバの IP アドレスまたはホスト名」(47 ページ) で指定した LDAP サーバに対して CIFS クライアントユーザを認証するためのセキュリティ保護された LDAP ポートです。

指定できるパラメータ: 有効なセキュリティ保護された LDAP ポート番号 (デフォルトは 636)。

プランニングしたパラメータ:

ルート認証局証明書ファイル

インストールスクリプトのプロンプト: Optional CA certificate file [/mnt/floppy]
(オプションの CA 証明書ファイル [/mnt/floppy]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_SAMBA_CA_CERT_FILE

説明: 「LDAP サーバの IP アドレスまたはホスト名」(47 ページ) (CONFIG_SAMBA_LDAP_HOST) で指定した LDAP サーバのルート認証局証明書ファイルのコピーの名前とパスです。

eDirectory の LDAP サーバを使用している場合は、eDirectory ツリーの SSL 証明書オブジェクトのいずれかから抽出したルート認証局証明書ファイルを指定します。

証明書は base64 形式とし、ファイルはインストール時にファイルシステム上で使用できる必要があります。また、ファイル名に空白を含めることはできません。

たとえば、エクスポートしたファイルのデフォルト名が「TrustedRootCert - SSL CertificateDNS - linux.b64」である場合、ファイル名を「TrustedRootCert - SSLCertificateDNS-linux.b64」に変更する必要があります。

注: この NNLS サーバ上に作成中の新しい eDirectory ツリーに Samba をインストールし、その LDAP サーバをユーザ認証に使用する場合、このディレクティブはオプションです。その他のすべての場合には、セキュリティ保護された LDAP 認証用にシステムを正しく設定するために、インストール時に証明書ファイルを用意する必要があります。

指定できるパラメータ: LDAP サーバのルート認証局証明書ファイルの名前とパス。

プランニングしたパラメータ:

既存の Samba の削除

インストールスクリプトのプロンプト: Remove existing Samba packages [yes]
(既存の Samba パッケージを削除しますか [yes]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_REMOVE_EXISTING_SAMBA

説明: NNLS をインストールする前にインストールされていた Samba コンポーネントを削除するかどうかを指定します。

注: インストールスクリプトを複数回実行しても、以前にインストールした NNLS ディストリビューションの Samba は削除されません。以前にインストールした NNLS 製品を削除するには、明示的にアンインストールを行う必要があります。詳細については、5 章「NNLS のコンポーネントのアンインストール」(25 ページ)を参照してください。

指定できるパラメータ: yes、no

プランニングしたパラメータ:

iFolder

eDirectory サーバの IP アドレスまたは DNS ホスト名

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the LDAP server IP address or DNS hostname [default LDAP server]
(LDAP サーバの IP アドレスまたは DNS ホスト名を入力してください [デフォルトの LDAP サーバ]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_IFOLDER_EDIR_IP_ADDR

説明: 次のような eDirectory サーバの IP アドレスまたは DNS ホスト名です。

- ◆ グローバル設定と iFolder オブジェクトのためにスキーマを拡張した eDirectory サーバ
 - ◆ iFolder ユーザの認証に使用する LDAP サーバとして機能する eDirectory サーバ
- サーバには、インストールした eDirectory のマスタレプリカまたは読み込み / 書き込みレプリカが必要です。

指定できるパラメータ: eDirectory サーバの IP アドレス。

プランニングしたパラメータ:

LDAP ポート番号

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the LDAP port number [389] (LDAP ポート番号を入力してください [389]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_IFOLDER_EDIR_PORT

説明: LDAP サーバが使用する LDAP ポートです。

指定できるパラメータ: 有効な LDAP ポート番号 (デフォルトは 389)。

プランニングしたパラメータ:

eDirectory 管理者の名前とコンテキスト

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the LDAP admin name with context [LDAP admin name with context]
(LDAP 管理者の名前とコンテキストを入力してください [LDAP 管理者の名前とコンテキスト]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_IFOLDER_ADMIN_CONTEXT

説明: 「eDirectory サーバの IP アドレスまたは DNS ホスト名」(50 ページ)
(CONFIG_IFOLDER_EDIR_IP_ADDR) で指定した eDirectory サーバ上でスキーマの拡張と iFolder オブジェクトのインストールを行う権利を持つユーザオブジェクトの完全識別名です。

名前とコンテキストの指定には、タイプフル構文
(cn=name.ou=organizational_unit.o=organization) を使用する必要があります。

指定できるパラメータ: 「説明」で説明した、ユーザの名前と完全識別コンテキスト。

プランニングしたパラメータ:

管理者のパスワード

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the LDAP admin password [*****]
(LDAP 管理者のパスワードを入力してください [*****]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_IFOLDER_EDIR_ADMIN_PASSWORD

説明: 「eDirectory 管理者の名前とコンテキスト」(51 ページ)
(CONFIG_IFOLDER_ADMIN_CONTEXT) で指定したユーザのパスワードです。

指定できるパラメータ: 管理者ユーザのパスワード。

プランニングしたパラメータ:

iFolder サーバの IP アドレスまたはホスト名

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the iFolder server IP address or DNS hostname [default iFolder server]
(iFolder サーバの IP アドレスまたは DNS ホスト名を入力してください [デフォルトの iFolder サーバ]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_IFOLDER_SERVER_IP_ADDR

説明: この NNLS サーバ上で iFolder が使用する IP アドレスです。

指定できるパラメータ: このサーバ上の有効な IP アドレス。

プランニングしたパラメータ:

iFolder 管理者の名前

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the iFolder admin usernames [admin]
(iFolder 管理者のユーザ名を入力してください [admin]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_IFOLDER_ADMIN_USERS

説明: インストール後に iFolder を管理する権利を持つユーザオブジェクトです。このようなユーザの少なくとも 1 人は、新しい iFolder ユーザの作成など特定のタスクについてスキーマを拡張する権利を持っている必要があります。

これらのユーザは、「eDirectory 管理者の名前とコンテキスト」(51 ページ) (CONFIG_IFOLDER_ADMIN_CONTEXT) で指定したユーザオブジェクトと同じコンテキストに存在している必要があります。

指定できるパラメータ: 「説明」で説明した、空白を含めずにセミコロン (;) で区切ったユーザ名。

プランニングしたパラメータ:

iFolder ユーザのデータパス

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the iFolder user data path [/var/opt/novell/ifolderdata]
(iFolder ユーザのデータパスを入力してください [/var/opt/novell/ifolderdata]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_IFOLDER_USER_DATA_PATH

説明: NNLS サーバ上で iFolder ユーザのディレクトリとファイルを保存する場所です。

この場所には、ユーザのファイル保存要件を満たす十分なディスク容量が必要です。

指定できるパラメータ: このサーバ上の有効なディレクトリパス。

プランニングしたパラメータ:

NetMail

管理者の名前とコンテキスト

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the admin name with context [admin name and context]
(管理者の名前とコンテキストを入力してください [管理者の名前とコンテキスト]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_NETMAIL_ADMIN_CONTEXT

説明: NetMail ユーザの認証に使用する eDirectory サーバ上で管理権を持つユーザオブジェクトの完全識別名です。

名前とコンテキストの指定には、タイプフル構文 (cn=name.ou=organizational_unit.o=organization) を使用する必要があります。

指定できるパラメータ: 「説明」で説明した、ユーザの名前と完全識別コンテキスト。

プランニングしたパラメータ:

管理者のパスワード

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the admin password [*****]
(管理者のパスワードを入力してください [*****]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_NETMAIL_ADMIN_PASSWORD

説明: 「管理者の名前とコンテキスト」(52 ページ)
(CONFIG_NETMAIL_ADMIN_CONTEXT) で指定したユーザのパスワードです。

指定できるパラメータ: 管理者ユーザのパスワード。

プランニングしたパラメータ:

プライマリ DNS サーバの IP アドレスまたはホスト名

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the NetMail primary DNS server address or DNS hostname [primary server]
(NetMail のプライマリ DNS サーバのアドレスまたは DNS ホスト名を入力してください [プライマリサーバ]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_NETMAIL_DNS1

説明: 電子メールアドレスを解決するために NetMail で使用する 1 番目の DNS サーバ
です。

指定できるパラメータ: プライマリ DNS サーバの IP アドレス。

プランニングしたパラメータ:

セカンダリ DNS サーバの IP アドレスまたはホスト名

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the NetMail secondary DNS server address or DNS hostname (optional)
[secondary server] (NetMail のセカンダリ DNS サーバのアドレスまたは DNS ホ
スト名を入力してください (オプション) [セカンダリサーバ]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_NETMAIL_DNS2

説明: プライマリ DNS サーバで解決できなかった電子メールアドレスを解決するた
めに NetMail で使用する DNS サーバです。

指定できるパラメータ: セカンダリ DNS サーバの IP アドレス。

プランニングしたパラメータ:

電子メールのドメイン名

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the domain name for the NetMail server [domain name]
(NetMail サーバのドメイン名を入力してください [ドメイン名]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_NETMAIL_DOMAIN

説明: システム上の電子メールアドレスに使用する正式なドメイン名です。「メッセージングシステムのインターネットドメイン名」とも呼ばれます。たとえば、「novell.com」や「mycompany.com」などです。

指定できるパラメータ: 有効な正式ドメイン名。

プランニングしたパラメータ:

WebAccess の HTTP ポート番号

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the NetMail WebAccess HTTP port number [52080]
(NetMail WebAccess の HTTP ポート番号を入力してください [52080]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_NETMAIL_HTTP_PORT

説明: NetMail ユーザがこの NetMail サーバのアクセスに使用するネットワーク上の HTTP ポートです。

指定できるパラメータ: 有効なポート番号 (デフォルトは 52080)。

プランニングしたパラメータ:

WebAccess の HTTPS ポート番号

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the NetMail WebAccess HTTPS port number [52443]
(NetMail WebAccess の HTTPS ポート番号を入力してください [52443]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_NETMAIL_HTTPS_PORT

説明: NetMail ユーザがこの NetMail サーバのアクセスに使用する HTTPS ポートです。

指定できるパラメータ: 有効なポート番号 (デフォルトは 52443)。

プランニングしたパラメータ:

LDAP ポート番号

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the NetMail LDAP port number [52389]
(NetMail の LDAP ポート番号を入力してください [52389]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_NETMAIL_LDAP_PORT

説明: アドレス帳の検索に使用する NetMail の MsgLDAP のポートです。

指定できるパラメータ: 有効な LDAP ポート番号 (デフォルトは 52389)。

プランニングしたパラメータ:

iManager

iManager サーバのアドレス

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the iManager server address or DNS hostname [default iManager server] (iManager サーバのアドレスまたは DNS ホスト名を入力してください [デフォルトの iManager サーバ]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_IMANAGER_ADDRESS

説明: このサーバ上で iManager が使用する IP アドレスです。

サーバには、インストールした eDirectory のマスタレプリカまたは読み込み / 書き込みレプリカが必要です。

指定できるパラメータ: このサーバ上の IP アドレス。

プランニングしたパラメータ:

iManager 管理者の名前とコンテキスト

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the admin name with context (for example, cn=admin.o=novell) [admin name with context] (管理者の名前とコンテキスト (cn=admin.o=novell など) を入力してください [管理者の名前とコンテキスト]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_IMANAGER_ADMIN_CONTEXT

説明: iManager で管理する eDirectory サーバの最上位管理者の完全識別名です。

名前とコンテキストの指定には、タイプフル構文 (cn=name.ou=organizational_unit.o=organization) を使用する必要があります。

指定できるパラメータ: 「説明」で説明した、管理者の名前と完全識別コンテキスト。

プランニングしたパラメータ:

管理者のパスワード

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the admin password [*****] (管理者のパスワードを入力してください [*****]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_IMANAGER_ADMIN_PASSWORD

説明: 「iManager 管理者の名前とコンテキスト」(55 ページ) (CONFIG_IMANAGER_ADMIN_CONTEXT)で指定した管理者のパスワードです。

指定できるパラメータ: 管理者ユーザのパスワード。

プランニングしたパラメータ:

LDAP サーバの IP アドレスまたはホスト名

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the LDAP server IP address or DNS hostname [*default LDAP server*] (LDAP サーバの IP アドレスまたは DNS ホスト名を入力してください [デフォルトの LDAP サーバ]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_IMANAGER_LDAP_ADDRESS

説明: eDirectory に対する iManager ユーザの認証に使用する eDirectory サーバの IP アドレスです。

指定できるパラメータ: 有効な IP アドレス。

プランニングしたパラメータ:

セキュリティ保護された LDAP ポート番号

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the LDAP port number [636] (LDAP ポート番号を入力してください [636]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_IMANAGER_LDAP_PORT

説明: 「LDAP サーバの IP アドレスまたはホスト名」(56 ページ) (CONFIG_IMANAGER_LDAP_ADDRESS using LDAP) で指定した、ユーザが eDirectory サーバとの通信に使用するセキュリティ保護された LDAP ポートです。

指定できるパラメータ: 有効なセキュリティ保護された LDAP ポート番号 (デフォルトは 636)。

プランニングしたパラメータ:

iManager の WebAdmin HTTP ポート番号

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the iManager WebAdmin HTTP port number [8018] (iManager の WebAdmin HTTP ポート番号を入力してください [8018]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_IMANAGER_WEBADMIN_HTTP_PORT

説明: WebAdmin ユーザが NetMail と Red Carpet™ の管理に使用する HTTP ポート番号です。

NNLS では WebAdmin のアクセスに iManager を使用するの、このディレクティブはここに含まれています。

指定できるパラメータ: 有効な HTTP ポート番号 (デフォルトは 8018)。

プランニングしたパラメータ:

iManager の WebAdmin HTTPS ポート番号

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the iManager WebAdmin HTTPS port number [8020]
(iManager の WebAdmin HTTPS ポート番号を入力してください [8020]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_IMANAGER_WEBADMIN_HTTPS_PORT

説明: WebAdmin ユーザが NetMail と Red Carpet の管理に使用する HTTPS ポート番号です。

NNLS では WebAdmin のアクセスに iManager を使用するので、このディレクティブはここに含まれています。

指定できるパラメータ: 有効な HTTPS ポート番号 (デフォルトは 8020)。

プランニングしたパラメータ:

iPrint

管理者の名前とコンテキスト

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the admin name with context [admin name with context]
(管理者の名前とコンテキストを入力してください[管理者の名前とコンテキスト]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_IPRINT_ADMIN_CONTEXT

説明: 「iPrint サーバの IP アドレスまたはホスト名」(58 ページ) で指定した eDirectory サーバ上での iPrint のインストール時にスキーマを拡張する権利を持つユーザオブジェクトの完全識別名です。

指定できるパラメータ: 「説明」で説明した、ユーザの完全識別名。

プランニングしたパラメータ:

管理者のパスワード

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the admin password [*****]
(管理者のパスワードを入力してください [*****]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_IPRINT_ADMIN_PASSWORD

説明: 「管理者の名前とコンテキスト」(57 ページ)
(CONFIG_IPRINT_ADMIN_CONTEXT) で指定したユーザのパスワードです。

指定できるパラメータ: 管理者ユーザのパスワード。

プランニングしたパラメータ:

iPrint サーバの IP アドレスまたはホスト名

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the eDirectory IP address or DNS hostname [*default iPrint server*] (eDirectory の IP アドレスまたは DNS ホスト名を入力してください [デフォルトの iPrint サーバ]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_IPRINT_EXISTING_IP

説明: iPrint をインストールしてスキーマを拡張する eDirectory サーバの IP アドレスまたは DNS ホスト名です。

サーバには、インストールした eDirectory のマスタレプリカまたは読み込み / 書き込みレプリカが必要です。

指定できるパラメータ: 有効な IP アドレスまたは DNS ホスト名。

プランニングしたパラメータ:

iPrint ツリー名

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the name of the eDirectory tree that hosts iPrint [*default iPrint tree name*] (iPrint をホストする eDirectory ツリーの名前を入力してください [デフォルトの iPrint ツリー名]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_IPRINT_TREE_NAME

説明: iPrint をホストする eDirectory ツリーの名前です。

指定できるパラメータ: 有効な eDirectory ツリー名。

プランニングしたパラメータ:

Virtual Office

eDirectory サーバの IP アドレスまたはホスト名

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the eDirectory server IP address or DNS hostname [*default eDir server*] (eDirectory サーバの IP アドレスまたは DNS ホスト名を入力してください [デフォルトの eDirectory サーバ]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_VO_ADDRESS

説明: Virtual Office をインストールする eDirectory サーバの IP アドレスまたは DNS 名です。

このサーバには、インストールした eDirectory のマスタレプリカまたは読み込み / 書き込みレプリカが必要です。

指定できるパラメータ: 有効な IP アドレスまたは DNS ホスト名。

プランニングしたパラメータ:

管理者の名前とコンテキスト

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the admin name with context [admin name with context]
(管理者の名前とコンテキストを入力してください[*管理者の名前とコンテキスト*]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_VO_ADMIN_CONTEXT

説明: 「eDirectory サーバの IP アドレスまたはホスト名」(58 ページ)
(CONFIG_VO_ADDRESS) で指定した eDirectory サーバに対する管理権を持つ
ユーザオブジェクトの完全識別名です。

このユーザは、指定した eDirectory サーバにインストールする Virtual Office に対
してスキーマを拡張する権利を持っている必要があります。

指定できるパラメータ: 「説明」で説明した、ユーザの完全識別名。

プランニングしたパラメータ:

管理者のパスワード

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the admin password [*****]
(管理者のパスワードを入力してください [*****]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_VO_ADMIN_PASSWORD

説明: 「管理者の名前とコンテキスト」(59 ページ) (CONFIG_VO_ADMIN_CONTEXT)
で指定したユーザのパスワードです。

指定できるパラメータ: 管理者ユーザのパスワード。

プランニングしたパラメータ:

NetStorage 認証サーバ

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the NetStorage authentication domain host [default NetStorage server]
(NetStorage 認証ドメインのホストを入力してください[*デフォルトの NetStorage
サーバ*]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_VO_EDIR_SERVER_HOST

説明: NetStorage ユーザが LDAP を使用して認証を受ける eDirectory サーバの IP アド
レスまたは DNS ホスト名です。これは、NetStorage がインストールされるサー
バの IP アドレスである必要はありません。

指定できるパラメータ: 有効な IP アドレスまたは DNS ホスト名。

プランニングしたパラメータ:

NetStorage プロキシユーザの名前とコンテキスト

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the NetStorage proxy username with context [proxy username with context] (NetStorage プロキシユーザの名前とコンテキストを入力してください [プロキシユーザの名前とコンテキスト]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_VO_PROXY_CONTEXT

説明: 次のことを行う権利を持つユーザオブジェクトの完全識別名です。

- 「NetStorage 認証サーバ」(59 ページ) (CONFIG_VO_EDIR_SERVER_HOST) で指定した LDAP (eDirectory) ツリーで NetStorage ユーザを検索する。
- iFolder のストレージロケーションが NetStorage で定義されている場合、iFolder ユーザが初めてストレージロケーションにアクセスしたときにそのユーザのパスフレーズを eDirectory に保存する。これにより、ユーザは iFolder サーバ上にあるファイルやディレクトリにアクセスするときにパスフレーズを入力する必要がなくなります。

指定できるパラメータ: LDAP ユーザの完全識別名。

プランニングしたパラメータ:

NetStorage プロキシユーザのパスワード

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the NetStorage proxy user password [*****] (NetStorage プロキシユーザのパスワードを入力してください [*****]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_VO_PROXY_PASSWORD

説明: 「NetStorage プロキシユーザの名前とコンテキスト」(60 ページ) (CONFIG_VO_PROXY_CONTEXT) で指定したユーザのパスワードです。

指定できるパラメータ: プロキシユーザのパスワード。

プランニングしたパラメータ:

NetStorage ユーザのコンテキスト

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the users' context [o=novell] (ユーザのコンテキストを入力してください [o=novell]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_VO_USERS_CONTEXT

説明: NetStorage ユーザを検索するための NetStorage 認証サーバ (CONFIG_VO_EDIR_SERVER_HOST) のコンテキストです。すべてのサブコンテキストも検索されます。NetStore を使って eDirectory ツリー全体を検索するには、ルートコンテキストを指定します。

指定できるパラメータ: 有効な LDAP コンテキスト。

プランニングしたパラメータ:

iFolder サーバの IP アドレスまたはホスト名

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the iFolder server address (optional) [default iFolder server] (iFolderサーバのアドレスを入力してください(オプション)[デフォルトのiFolderサーバ]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_VO_IFOLDER_HOST

説明: (オプション)NetStorage のストレージロケーションとして作成する iFolder サーバの IP アドレスまたはホスト名です。これを指定すると、自動的に Virtual Office ユーザが iFolder を使用できるようになります。iFolder に保存されている自分のファイルに NetStorage を使用してアクセスするには、ユーザは iFolder サーバで自分の iFolder ユーザアカウントを有効にする必要があります。また、ユーザが NetStorage で iFolder のパスワードを設定できるようにする必要があります。

指定できるパラメータ: 有効な IP アドレスまたは DNS ホスト名。

プランニングしたパラメータ:

Red Carpet

管理者の電子メールアドレス

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the e-mail address [admin_name@company_name.com] (電子メールアドレスを入力してください [admin_name@company_name.com]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_REDCARPET_EMAIL

説明: (オプション)NNLS の更新に関する通知を受信する電子メールアドレスです。

指定できるパラメータ: 有効な電子メールアドレス。

プランニングしたパラメータ:

プロキシサーバ

インストールスクリプトのプロンプト: Is this machine connected to the Internet via a proxy server? [no] (このコンピュータはプロキシサーバを介してインターネットに接続されていますか? [no]):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_RCD_PROXY

説明: NNLS サーバがプロキシサーバを介してインターネットに接続されるかどうかを指定します。

指定できるパラメータ: yes、no

プランニングしたパラメータ:

プロキシサーバ連絡先 URL

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the proxy URL (プロキシサーバの URL を入力してください):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_RCD_PROXY_URL

説明: 「[プロキシサーバ](#)」 (61 ページ) (CONFIG_RCD_PROXY) との通信に NNLS サーバが使用する URL です。

指定できるパラメータ: 有効な URL。

プランニングしたパラメータ:

プロキシユーザの名前

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the proxy username (プロキシユーザの名前を入力してください):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_RCD_PROXY_USER

説明: 「[プロキシサーバ](#)」 (61 ページ) (CONFIG_RCD_PROXY) に対する認証で NNLS サーバが使用するユーザの名前です。

指定できるパラメータ: 有効なユーザ名。

プランニングしたパラメータ:

プロキシユーザのパスワード

インストールスクリプトのプロンプト: Enter the password (パスワードを入力してください):

.conf ファイルのディレクティブ: CONFIG_RCD_PROXY_USER_PASSWORD

説明: 「[プロキシユーザの名前](#)」 (62 ページ) (CONFIG_RCD_PROXY_USER) のパスワードです。

指定できるパラメータ: プロキシユーザのパスワード。

プランニングしたパラメータ:

C

NNLS のファイルとデータ の場所

このセクションでは、各種のデータタイプおよびプログラムコンポーネントを Linux のファイルシステムに保存する場所に関する Novell® の表記規則について説明します。

NNLS のコンポーネントは、ファイルの場所に関して可能な限り LSB (Linux Standard Base) の要件に従うように考えられています。以下のセクションでは、このことについて説明します。

全般的な規則

可能な限り、以下の規則に従っています。

- ◆ **/opt/novell:** すべての静的なデータは以下の標準ディレクトリに格納します。

<code>/opt/novell/bin</code>	複数の製品で使用する実行形式ファイル、またはエンドユーザが実行する実行形式ファイルが格納されます。
<code>/opt/novell/product/bin</code>	1 つの製品のみで使用し、エンドユーザは実行しない実行形式ファイルが格納されます。
<code>/opt/novell/lib</code>	複数の製品で使用する共有ライブラリと、SDK の一部となっている共有ライブラリまたは静的ライブラリが格納されます。
<code>/opt/novell/include</code>	SDK のヘッダファイルが格納されます。通常は製品別のサブディレクトリに分かれています。
<code>/opt/novell/include</code>	SDK のヘッダファイルが格納されます。通常は製品別のサブディレクトリに分かれています。

- ◆ **/opt/novell/include** 一般に、ホスト固有の設定データが格納されます。

注: eDirectory の .conf ファイルは、`/etc/nds.conf` です。

製品の設定ファイルが 1 つだけの場合、名前は `product.conf` です。

製品に複数の設定ファイルがある場合は、その製品の名前が付いたサブディレクトリに格納されます。

- ◆ **/var/opt/novell:** すべての可変データが格納されます。

可変データ (通常の実行時操作で変化するデータ) は、`product` サブディレクトリに格納されます。

- ◆ **/var/opt/novell/log:** 一般に、ログファイルが格納されます。

注: eDirectory のログファイルは、/etc/nds/ndsd.log です。

製品のログファイルが 1 つだけの場合、その製品の名前が付いたファイルが使用されます。

製品に複数のログファイルがある場合は、その製品の名前が付いたサブディレクトリに格納されます。

- ◆ 可能な場合、上記の規則に従うことができないファイルとディレクトリには「novell-」というプレフィックスが付けられます。

例外

製品を正しく機能させるために、一部のファイルを標準的でない場所に格納する必要があります。このような例外には、/etc/init.d に格納しなければならない初期化スクリプトと、/etc/cron.d に格納しなければならない cron スクリプトの 2 つがあります。可能な場合、これらのファイルには「novell-」というプレフィックスが付けられます。

標準の表記規則によってプレフィックスを使用できない場合 (プレフィックスではなくサフィックスを使用する PAM モジュールの場合など) は、標準の表記規則に従っています。

例

表 5 は、このセクションで説明したガイドラインを示す例です。

表 5 例

サブディレクトリまたはファイル	内容
/opt/novell/bin/htpasswd	このコマンドはエンドユーザが実行する可能性があるため、/opt/novell/bin に置かれています。
/opt/novell/httpd/bin/httpd	このコマンドをエンドユーザが実行することはありません。通常は、初期化スクリプトによって起動されます。
/etc/init.d/novell-httpd	標準的な規則に示したように、この初期化スクリプトには「novell-」というプレフィックスが付きます。
/opt/novell/include/libldap_c/ldap.h	標準的な規則に示したように、このヘッダファイルは libldap_c という製品別のサブディレクトリにあります。
/opt/novell/lib/libldapsdk.so	この共有ライブラリは SDK の一部で、複数の製品によって使用されます。
/etc/opt/novell/ifolder/httpd_unix_ifolder.conf	これは、iFolder [®] 製品のホスト固有設定ファイルです。
/var/opt/novell/ifolderdata/	このサブディレクトリには、通常の iFolder の実行時操作で変化するデータファイルが格納されます。
/var/opt/novell/log/httpd/error.log	これは、NNLS バージョンの Apache Web サーバに関連する複数のログファイルの 1 つです。